

TASCAM

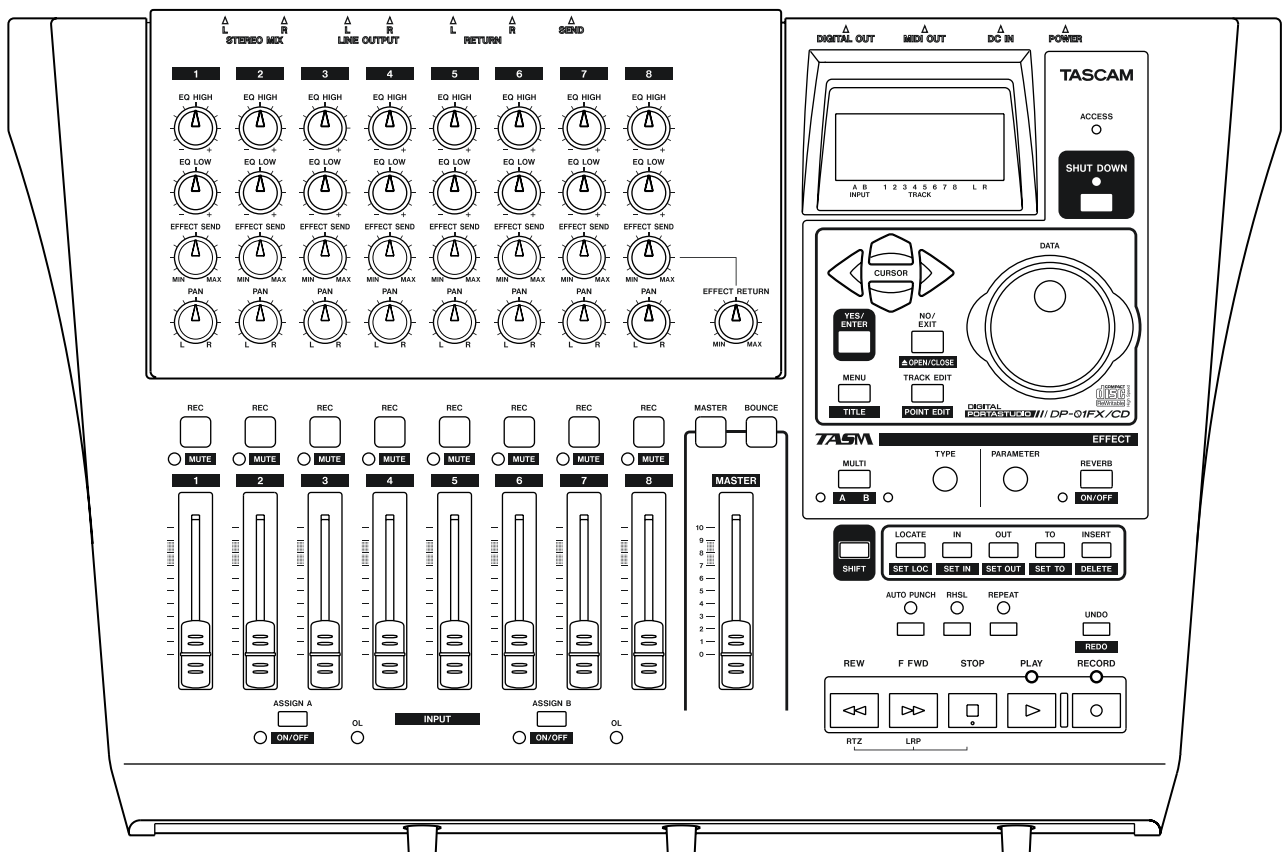
TEAC Professional Division

D00871301A

DP-01 DP-01FX DP-01FX/CD

DIGITAL
PORTASTUDIO //


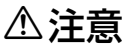
取扱説明書






安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告



万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。



万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。



この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。



この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠️ 警告



万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2 cm以上、背面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠️ 注意



オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。



電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



ディスクトレイが閉まるときに手指をはさまれないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。



5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。



次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所



電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



ACアダプターは、布や布団でおおったり、つんだりしないでください。熱がこもり、ケースが変形し、火災の原因となることがあります。風通しのよい状態でご使用ください。



移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。



この機器には、付属のACアダプターおよび電源コードセットをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。



付属のACアダプターおよび電源コードセットを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

安全にお使いいただくために	2	FATパーティションをフォーマットする	37
第1章 DP-01を使う	5	自動ソング作成	37
はじめに	5	高度なソング管理	38
この取扱説明書について	5	ソングをコピーする	38
著作権に関して	6	不要なデータを削除する	38
DP-01 ラインナップ	6	ソングをプロテクトする	39
本機の構成	6	USB接続を使う	39
起動と終了	7	USBモードのオープンとクローズ	40
DP-01 を起動する	7	ソングのバックアップとリストア	41
DP-01 をシャットダウン(終了)する	8	トラックのインポートとエクスポート	43
ACCESS インジケータ	8	トラックを編集する	46
デモソングの再生方法	8	IN、OUT、TO	46
メニュー操作	10	トラック編集機能	46
SHIFTキー	11	操作を取り消す(UNDO)	51
名前を付ける	11	トラブルシューティング	52
DP-01 を外部機器と接続する	12	メッセージ	53
ソングを管理する	16	仕様	55
新しいソングを作成する	16	ブロックダイアグラム	57
ソング情報	18	第3章 DP-01FXの付加機能	58
入力をアサインする	19	バランスXLR入力	58
レコーディング	20	ギター/ベース用チューナー	58
より高度な機能	21	ノイズサプレッサー	59
ミックスダウンとマスタリング	22	マルチエフェクト	60
第2章 高度なテクニック	24	リバーブ	64
ロケート機能	24	第4章 DP-01FX/CDの付加機能	65
ダイレクトロケート	24	CD-R/CD-RWディスクに関して	65
ロケーションマーク	24	CD-RディスクとCD-RWディスクについて	65
IN/OUTポイント	25	CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについて	65
メーターを使う	26	メディア対応表	66
EQの設定	27	CDのOPEN/CLOSE	67
オートパンチイン/アウト	28	オーディオCDメニュー	67
リハーサル	28	オーディオCDを再生する	67
パンチイン/アウトの実行	29	オーディオCDを作成する	68
プリロールタイムとポストロールタイムの設定	29	ファイナライズする	71
トラックバウンス	30	オーディオCDを消去する	71
リピート	31	データCDメニュー	72
リピートの間隔を設定する	31	CDからインポートする	72
バー/ビートを基準に作業する	32	CDにエクスポートする	73
テンポの設定	32	CDにソングをバックアップする	74
タイムモードを選択する	32	CDからソングをリストアする	75
メトロノーム	33	データCDを消去する	76
MIDIと一緒に使う	34	エラーメッセージ	77
MIDIクロックなど	34	メッセージ	78
MIDIタイムコード	35	第5章 操作方法一覧	81
ディスク管理	36	こんなときには?	81
アクティブパーティションを選択する	36		
ディスクをフォーマットする	36		
パーティションをフォーマットする	37		

はじめに

はじめに本章をお読みください。本章にはDP-01を使う上で必要な基本的な情報や魅力的なオリジナル作品を創作する手助けになるような情報が述べられています。本章（「DP-01を使う」）をお読みになると、DP-01のおおまかな使い方がわかり、録音／再生ができるようになります。

タスカムDP-01をお買い上げいただき、ありがとうございます。本機はコンパクトでありながら高音質の録音が可能な8トラックのデジタルディスクレコーダーです。非常に使いやすく設計されていますので、録音操作に気を取られることなく、音楽創作に専念することができます。

DP-01には大容量ハードディスクが搭載されており、同時最大2トラック、トータル最大8トラックのマルチトラック録音を数時間分行なうことができます。さらに内蔵のミキサー機能を使って、マルチトラックをマスターステレオトラックにミックスダウンすることができます。

こうして作成されたステレオミックスをCDなどに書き込むことができるほか、コンピュータのオーディオ入力を経由してインターネット配信したり、USB2.0接続によってパソコンに転送することもできます。

さらにDP-01とパソコン間で、個々のトラックデータの送受信を行なうことができますので、PCを使ったソングのバックアップ、リストアが可能です。

この取扱説明書について

これまでにマルチトラックレコーディングの経験がある方もない方も、本取扱説明書をよくお読みになって、DP-01を十分に活用してください。第1章ではDP-01の基本操作を説明しますので、基本的なレコーディングを行なうための知識を身に付けることができます。第2章「高度なテクニック」（24ページ～）では、さらに本機を活用できる機能を紹介します。

本書ではマルチトラックレコーディングのテクニックに関する説明をすべて網羅しているわけではありませんが、タスカムのウェブサイトからは、レコーディングに関するさまざまな資料をダウンロードすることができますので、ぜひご利用ください。

取扱説明書の表記について

- DP-01および外部機器のキー／端子、画面に表示されるメッセージなどを「MENUキー」のように太字で表記します。
- 本文の脇には、「**注意**」などの追加情報を記載します。

トラブルシューティング

DP-01は使いやすさを徹底的に追求した設計になっていますが、それでも使用中に困ることがあるかもしれません。そんなときには「トラブルシューティング」（52ページ）をご覧ください。よくある質問と回答の一覧が記載されています。また本機のポップアップメッセージリストには、それぞれのメッセージの意味と対処方法が記載されています（→53ページ「メッセージ」）。

こんなときには？

こんなことをやるにはどうすればいいか、といった疑問があるときには本書巻末の「こんなときには？」をご参照ください。

ヒント

DP-01をこんなふうに使することができる、といったヒントを記載します。

メモ

特殊なケースなどの説明をします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、録音したデータが失われたりする可能性がある場合に記載します。

はじめに

著作権に関して

Windows、Windows XP、Windows 2000はMicrosoft Corporationの登録商標です。

Macintosh、MacOS、MacOS XはApple Computer社の登録商標です。

DP-01 ラインナップ

DP-01には、DP-01とDP-01FX、DP-01FX/CDの3つのモデルがあります。DP-01FXはファントム電源内蔵のXLR入力端子を搭載し、エフェクターを内蔵しています。DP-01FX/CDは、DP-01FXにCD-R/RWのドライブを搭載した製品です。ほとんどの機能は3つのモデルに共通ですので、本書で"DP-01"という場合、とくに断りがないかぎり3つのモデルを指します。モデル間で異なる機能の場合は、その旨を説明します。

本書の第3章の「DP-01FXの付加機能」(58ページ)には、DP-01FXおよびDP-01FX/CDに搭載されている機能が説明されています。

また、本書の第4章の「DP-01FX/CDの付加機能」(65ページ)には、DP-01FX/CDだけに搭載されている機能が説明されています。

よって、当該機種をお持ちでない場合は読む必要がありません。

本機の構成

本機の構成は以下の通りです。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷がある場合、当社までご連絡ください。

- ・ DP-01、DP-01FXまたはDP-01FX/CD
- ・ 電源アダプター (PS-1225)
- ・ 電源コード
- ・ 取扱説明書
- ・ 保証書

電源アダプターについて

注意

DP-01には、付属のPS-1225電源アダプター／電源コードをご使用ください。また、付属の電源アダプター／電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

起動と終了

DP-01 の起動と終了の方法を説明します。

注意

DP-01 の電源のオン／オフ操作は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行なってください。また、電源オン／オフ操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによってスピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

DP-01 を起動する

DP-01 のリアパネルの **POWER** スイッチを **OFF** にした状態で、電源アダプターと DP-01、電源コードと電源アダプター、電源コードとコンセントをそれぞれ接続します。

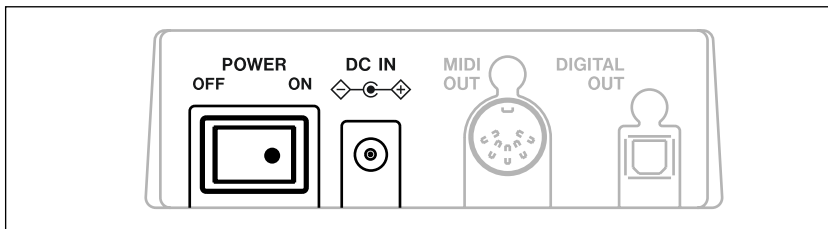


図 1.1 : DP-01 の電源接続

- DP-01 の電源をオンにします。
- DP-01 のディスプレイに以下が表示されます。

```

|          TASCAM          |
|          DP-01          |
  
```

システムが立ち上がり、最後に保存したソングがロードされます。ソングがロードされている間、**ACCESS** インジケーターが点灯し、ハードディスクが使用中であることを表示します。ディスプレイには現在の操作内容が表示されます。

- **ACCESS** インジケーターが消灯すると、ディスプレイに「ホーム画面」が表示されます。

```

| ABS  00:00:00:00 |
  
```

ヒント

たいていどの画面からでも **NO/EXIT** キーを数回押すと「ホーム画面」に戻ることができます。

DP-01 をシャットダウン (終了) する

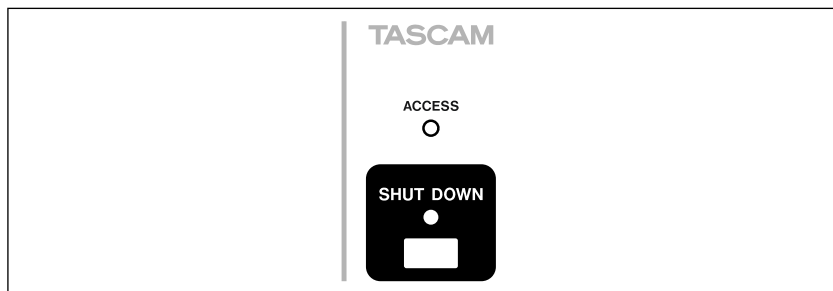


図 1.2 : SHUT DOWNキー／インジケータとACCESSインジケータ

- 1 再生中または録音中の場合、停止します。
- 2 SHUT DOWNキーを約1秒間、押したままにします。

以下の画面が表示されます。

```
| SHUTDOWN |  
| [ENTER] -> Exit |
```

- 3 YES/ENTERキーを押します。

シャットダウン処理が始まり、ディスプレイに"Storing Song"が表示されます。

ソングデータがハードディスクに保存されると、以下が表示されます。

```
| Complete |  
| Now Sw Off |
```

- 4 リアパネルのPOWERスイッチを使ってDP-01の電源を切ります。

ACCESSインジケータ

ハードディスクまたはCD-RWドライブが動作中に赤く点灯します。DP-01を取り扱うのに必要以上に神経質になる必要はありませんが、他の電子機器と同様に大事に扱ってください。とりわけ、ハードディスク動作中、CD書き込み中は動かさないようにしてください。

デモソングの再生方法

DP-01は出荷時に内蔵ハードディスクにデモソングが保存されています。その再生方法を説明します。

- 1 DP-01のLINE OUTコネクタからアンプまたはモニターシステムに接続します。ヘッドホンで聴くには前面右のPHONESジャックにプラグを差し込みます。
- 2 本体の電源を入れます。

起動が完了するとホーム画面が表示されます。

```
| ABS 00:00:00:00 |
```

注意

シャットダウンはここに記載した方法で行なってください。これ以外のやり方でDP-01をシャットダウンすると、レコーディングデータや設定が失われる可能性があります。

メモ

NO/EXITキーを押すと、シャットダウン操作がキャンセルされます。

注意

ACCESSインジケータ点灯中は、DP-01を動かしたり電源を切ったりしないでください。ハードディスクが損傷したり、データが失われる可能性があります。

3 MENUキーを押します。

MENU画面が表示されます。

```

----- MENU -----
SONG          0
DISK          :
BACKUP        : ▾
  
```

4 DATAダイヤルを回してカーソルを“SONG”に移動し、▶カーソルキーを押します。

[SONG MENU] 画面が表示されます。

```

-- SONG MENU --
CREATE        0
SAVE          :
REVERT        : ▾
  
```

5 DATAダイヤルを回してカーソルを“LOAD”に移動し、▶カーソルキーを押します。

[SONG LOAD] 画面が表示されます。

```

-- SONG LOAD --
▶ MyBlues    118M
  GoHome     ←224M
  
```

6 カーソルを“DP01DEMO”に移動し、ENTERキーを押します。

デモソングのロードが終了すると [SONG MENU] 画面に戻ります。

```

-- SONG LOAD --
▶ DP01DEMO  |
              |
              |
  
```

7 EXITキーを押します。

ホーム画面に戻ります。

8 PLAYキーを押してデモソングを再生します。

デモソングは8トラックです。各チャンネルのフェーダー、MASTERフェーダー、PANなどを調整してください。ヘッドホンの音量は前面のPHONESつまみで調整します。

メニュー操作

メニュー操作

DP-01ではメニューを使って設定や操作の実行などを行いません。ここではメニューの使い方や設定の方法などを説明します。

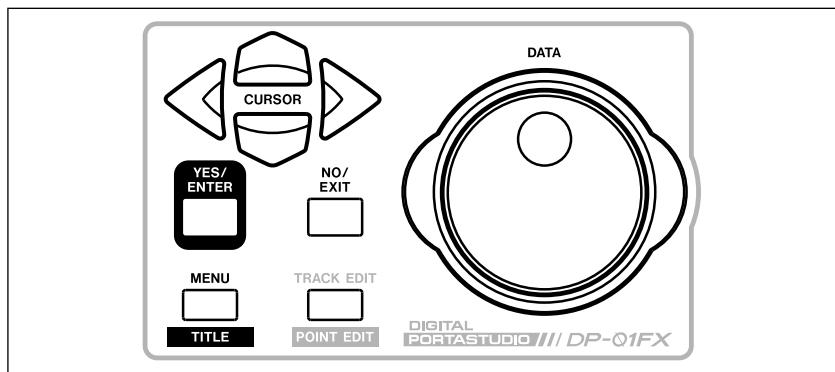


図 1.3 : メニュー操作部

- MENUキーを押してメニューのトップ画面を表示します。

```
----- MENU -----  
SONG          :  
DISK          :  
BACKUP       : ▾
```

- DATAダイヤルまたは▲/▼キーを使って、トップメニューリストから希望のメニューを選択します。

選択されているメニューでは" : "が反転表示の三角 ("▶") に変わります。

現在表示されているリストの上または（および）下にもメニューがある場合、メニュー画面の右下に▲または（および）▼が表示されます。

- ▶カーソルキーを押して選択中のメニューに入ります。

以下の画面はSONGメニューの例です。

```
-- SONG MENU --  
CREATE        :  
SAVE         :  
REVERT       : ▾
```

- DATAダイヤルまたは▲/▼キーを使って、メニューから希望の項目を選択します

以下の例ではERASEが選択されています。また現在の表示の上下には、他のメニュー項目が存在します。

```
-- SONG MENU --  
LOAD         :  
ERASE        : ▾  
COPY         : ▶
```

- ▶カーソルキーを押して、メニュー項目の実行画面を表示します。以下はERASE画面の例で、ソングのリストが表示されます。

```
-- SONG ERASE --  
▶ NO BLUE ← 67M  
YOU WIN    426M  
UPSTART   188M ▾
```

ヒント

メニュー操作中、上のメニュー階層に戻るには、NO/EXITキーを押します。

メモ

左記の画面におけるソング名とサイズは一例です。

- **DATA** ダイアルまたは▲/▼キーを使って、リストから消去するソングにカーソルを移動し、**YES/ENTER**キーを押します。

```
|  SONG ERASE  |
|Are you sure ?|
```

- 上記のような確認画面が表示された場合、**YES/ENTER**キーを押します。キャンセルするときは**NO/EXIT**キーを押します。
- 下記のような値を設定する画面が表示される場合もあります。その場合、▲/▼キーを使ってカーソルを移動して、**DATA**ダイアルを使って値を設定します。

```
-- PREFERENCE --
Pre  #2.0Sec
Post :1.0Sec
EQ LF:100 Hz #
```

SHIFTキー

2つの機能（主機能とシフト機能）を持つキーのシフト機能を使うときに、**SHIFT**キーを押しながらそのキーを押します。シフト機能はキーの下部に反転文字（DP-01FXでは青地に白文字、DP-01およびDP-01FX/CDでは緑地に白文字）で表記されています。

名前を付ける

ソングやエクスポートするトラックに名前を付けることができます。

以下のような画面を表示中、下記の要領で名前を付けます。

```
- SONG CREATE -
Title [SONG001 ]
[ENTER] -> Exe
```

- ◀/▶カーソルキーを使ってカーソル（下線）位置を移動します。カーソル位置が編集位置になります。
- **DATA**ダイアルを使ってカーソル（下線）位置の文字を変更します。一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を入力することができます。
- カーソル位置に空白を挿入するには**INSERT**キーを使います。カーソル位置の文字を削除するには**SHIFT**キーを押しながら**INSERT (DELETE)**キーを押します。
- 入力／編集を終えたら**YES/ENTER**キーを押します。ソングが新しい名前で保存されます。

DP-01 を外部機器と接続する

DP-01 を外部機器と接続する

DP-01 でレコーディングを行なう前に、外部機器との接続を行なう必要があります。図 1.4 に接続例を示します。

メモ

図 1.4 では DP-01FX モデルが使われています。DP-01 および DP-01FX/CD の外観は多少異なりますが、基本的には同じです。

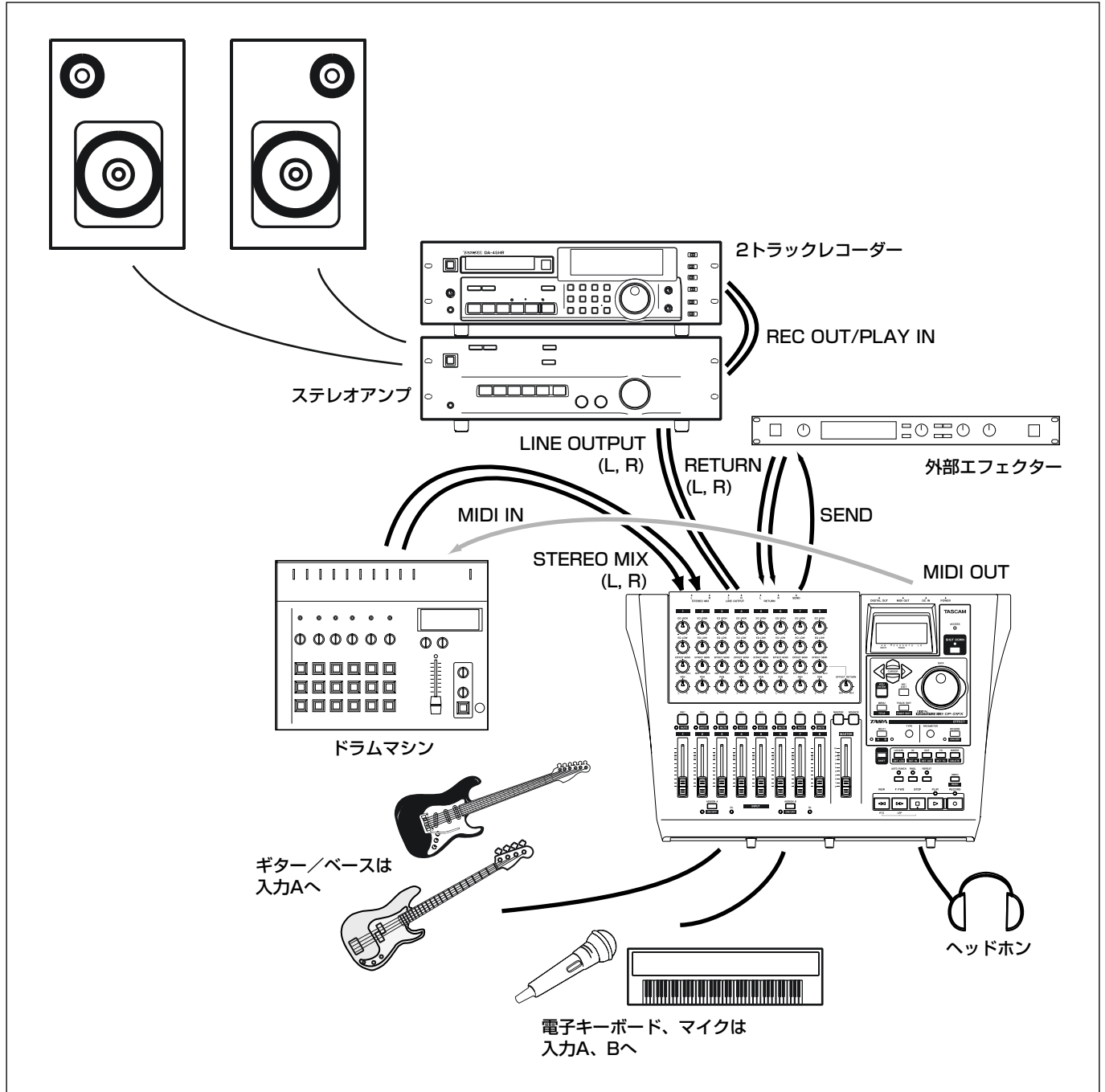


図 1.4 : DP-01 と外部機器の接続

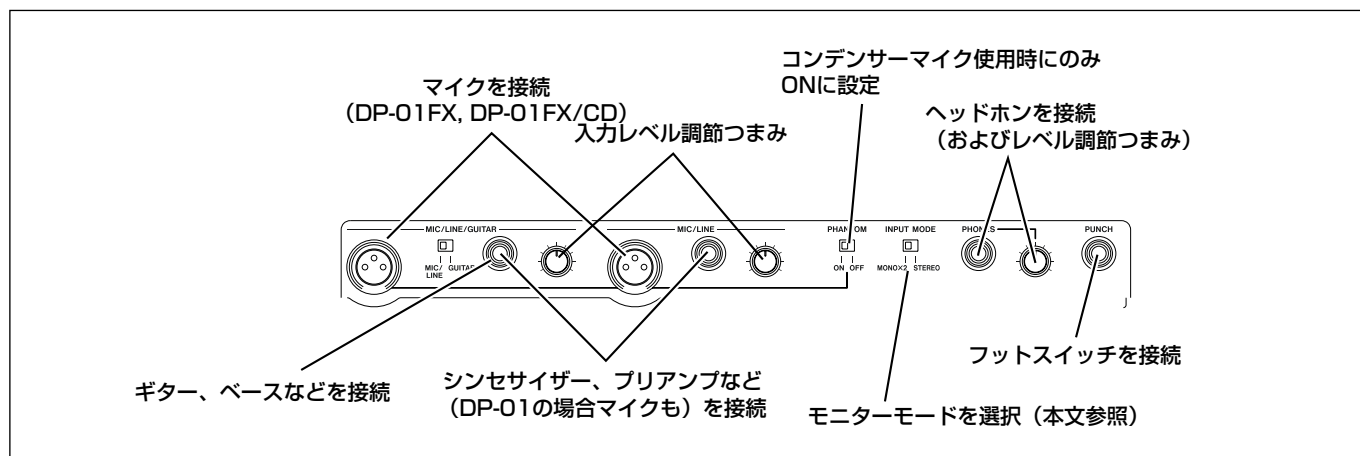


図 1.5 : DP-01FX フロントパネル

マイク

マイクはフロントパネルの入力端子に接続します。

GUITAR - MIC/LINE スイッチを **MIC/LINE** 側に設定します。録音入力信号のレベルが最大の時だけ **OL** インジケーターが点灯するように、入力レベル調節つまみを設定します。

シンセサイザーなど

シンセサイザーの他に、ドラムマシン、ギターアンプシミュレーター、アクティブタイプのベースなど、または CD プレーヤー、カセットデッキなどは、フロントパネルの標準ホンジャック（モノラル、アンバランス）に接続します。ステレオソースを接続する場合、**INPUT MODE** スイッチを適切に設定します。（→ 14 ページ「INPUT MODE スイッチ」）

GUITAR - MIC/LINE スイッチを **MIC/LINE** 側に設定します。

外部機器の出力レベルつまみ、または本機の入力レベル調節つまみを使って、録音入力信号のレベルが最大の時だけ **OL** インジケーターが点灯するように設定します。

ギター／ベース

ギター／ベース（パッシブタイプ）はフロントパネルの入力 **A** の標準ホンジャック（モノラル、アンバランス）に接続します。

GUITAR - MIC/LINE スイッチを **GUITAR** 側に設定します。

楽器の出力ボリュームつまみ、または本機の入力レベル調節つまみを使って、レベルが最大の時だけ **OL** インジケーターが点灯するように設定します。

ヘッドホン

フロントパネルの **PHONES** ジャック（標準ステレオホンジャック）にステレオヘッドホン接続します。

ジャックの右のつまみを使って、ボリュームを調節します。

フットスイッチ

フロントパネルの **PUNCH** ジャックに、タスカム RC-30P などの「プッシュ・トゥ・メイク」タイプのフットスイッチを接続します。フットスイッチ操作によるパンチイン／アウト（録音のスタート／ストップ）が可能です。

メモ

DP-01FX および DP-01FX/CD にはファントム電源内蔵の XLR マイク入力端子が 2 系統装備されています。この端子に関する詳細は「DP-01FX の付加機能」（58 ページ）をご覧ください。

注意

ギターアンプのスピーカー出力を DP-01 に接続しないでください。

ヒント

内蔵のチューナー（DP-01FX および DP-01FX/CD）を使ってギターやベースの調弦を行なうことができます。（→ 58 ページ「ギター／ベース用チューナー」）

ヒント

ギターを弾きながら録音操作をする場合など、フットスイッチが役立ちます。

DP-01 を外部機器と接続する

INPUT MODEスイッチ

入力AとBの両方を使ってレコーディングを行なう場合、INPUT MODEスイッチの設定によってモニターの間こえ方が変わります。

このスイッチはヘッドホンやLINE OUTPUT端子を使った入力信号のモニターに影響を与えます。以下の2つのポジションがあります。

● MONO x 2

入力AとBの信号がそれぞれ左右チャンネルの両方に送られます。

● STEREO

入力Aの信号が左チャンネル、入力Bの信号が右チャンネルに送られます。ステレオシンセサイザーなどの外部ステレオソースを接続して録音するときに、ステレオモニターすることができます。

メモ

INPUT MODEスイッチはレコーディングには影響を与えません。モニターにのみ影響を与えます。

メモ

MONO x 2モードでは入力AとBの信号はどちらも中央に定位します。ソースによっては稀にモニターシステムからの音が歪んで聞こえることがありますが、入力レベルが適正ならば、録音される音が歪むことはありません。

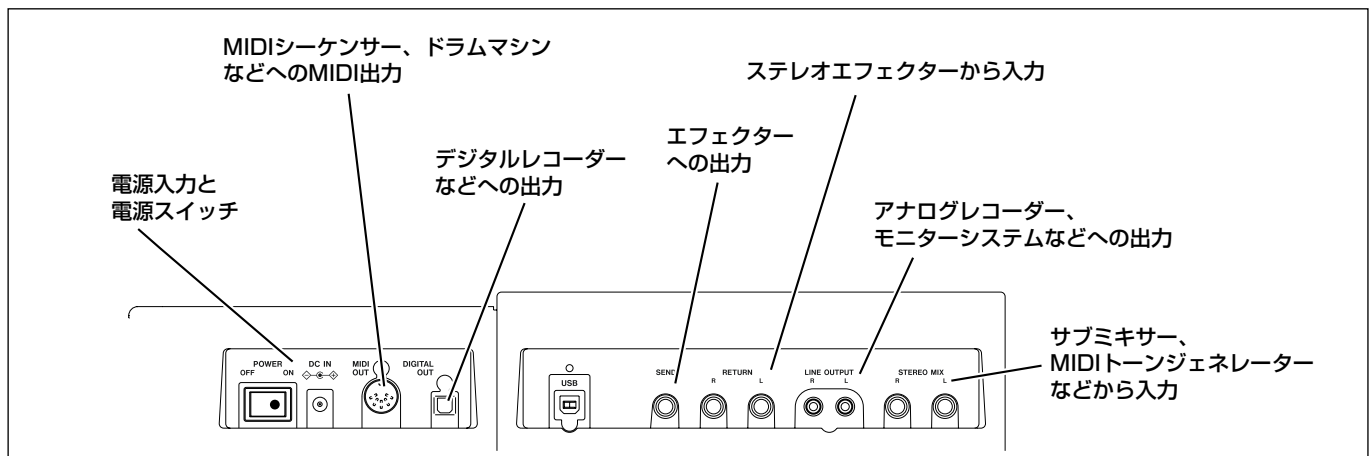


図 1.6 : リアパネルの接続

モニターとレコーディング

リアパネルのLINE OUTPUT端子 (RCAピンジャック) を使って、本機とモニターシステム (アンプ/スピーカー) を接続します。なお最終のステレオミックス録音の段階では、このLINE OUTPUT端子を使ってアナログレコーダーなどに接続することができます。

一般的には、LINE OUTPUT端子をステレオアンプのAUX INなどに接続します。そしてアンプの入力セレクターをAUXに設定して本機をモニターします。マスタリングだけでなく、マイクを使わないトラックングやトラックバウンス時にも、アンプ/スピーカーによるモニターが可能です。

ステレオトラックのマスタリングを終えて、レコーダーに録音をする場合、AUX INソースを録音できるようにアンプを設定します。そしてレコーダーをモニターします。

エフェクター

外部のエフェクターを使う場合、DP-01のリアパネルのSEND端子 (モノラル・アンバランス・標準ホンジャック) をエフェクターのモノ入力に接続します。

そしてエフェクターのステレオ出力を本機のRETURN (L, R)端子 (モノラル・アンバランス・標準ホンジャック) に接続します。

メモ

「トラックング」とはDP-01のトラックに録音することを言います。「マスタリング」とは録音トラックをステレオにミックスダウンすることを言います。

メモ

DP-01FXおよびDP-01FX/CDにはリバーブが内蔵されていますが、外部のエフェクターを使うこともできます。

外部ステレオ入力

DP-01には**STEREO MIX**端子（モノラル・アンバランス・標準ホンジャック）が装備されています。この端子に入力された信号は本機のステレオマスター出力とミックスされてアナログの**LINE OUTPUT**端子に送られます。したがって本機と同期しているMIDI音源出力を**STEREO MIX**端子に接続することにより、本機のトラック信号とMIDI音源を一緒にミックスすることができます。

なお、この端子に入力された信号はアナログの**LINE OUTPUT**端子だけに送られます。DP-01に録音することはできません。またDP-01で信号レベルの調整をすることもできません。

デジタル出力

オプティカルデジタルケーブルを使って、リアパネルの**DIGITAL OUT**端子とステレオデジタルレコーダーやモニターシステムのデジタル入力を接続します。

LINE OUTPUT端子から出力されるアナログ信号と同じソースが出力されます（ただし**STEREO MIX**端子から入力される信号は出力されません）。

MIDI出力

リアパネルの**MIDI OUT**端子をシーケンサー、ドラムマシンなどに接続することにより、DP-01とこれらの機器をMIDI同期走行することができます。詳しくは「MIDIと一緒に使う」（34ページ）をご覧ください。

ヒント

DIGITAL OUT端子をCDやMDなどのデジタルレコーダーに接続し、同時に**LINE OUT**端子をモニター用に使用することができます。

ソングを管理する

ソングを管理する

ここでは新しいソングを作成する手順および基本的なソング管理機能（ソング名の変更、削除、コピー）について説明します。ディスク管理の詳細およびソング管理機能の詳細に関しては、「ディスク管理」（36ページ）および「高度なソング管理」（38ページ）をご覧ください。

新しいソングを作成する

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってSONGメニュー項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```
== SONG MENU ==
CREATE      0
SAVE       :
REVERT     : ▾
```

- 2 DATAダイアルでCREATEを反転表示し、▶カーソルキーを押します。

```
- SONG CREATE -
Title [SONG001 ]
[ENTER] -> Exe
```

- 3 「名前を付ける」（11ページ）で述べた方法に従って、タイトル（ソング名）を付けます。
- 4 YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存された後、新しいソングが作成されます。

ソングを保存する

ソングの一部として録音したオーディオは自動的に保存されませんので、定期的に手動で保存してください。もちろん、シャットダウンは常に正しく行なってください。（→ 8ページ「DP-01をシャットダウン（終了）する」）

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってSONGメニュー項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```
== SONG MENU ==
CREATE      :
SAVE       0
REVERT     : ▾
```

- 2 DATAダイアルを使ってSAVEを反転表示し、▶カーソルキーを押します。

```
-- SONG SAVE ---
Title [SONG001 ]
[ENTER] -> Exe
```

- 3 タイトルを変更したいときはソング名を変更してから（→ 11ページ「名前を付ける」）YES/ENTERキーを押します。そのまま保存するときは単にYES/ENTERキーを押します。

ソングの保存中は"Storing Song"、保存が終了すると"Song Save Complete"と表示されます。

メモ

楽器だけ録音する場合や、セリフやナレーションだけを録音する場合であっても、他のオーディオ機器と同様に、DP-01では常に「ソング」と呼びます。

ヒント

SHIFTキーを押しながらMENUキーを押すことにより、現在ロードされているソングの名前を編集することができます。

メモ

「ソング」は録音したオーディオファイルだけではありません。編集や設定などの情報も含まれます。

最後のバージョンに戻す

SONG メニュー内の REVERT 項目 (SAVE 項目の次) を使って、最後の保存以降の変更をすべてキャンセル (アンドゥ) することができます。

- REVERT を選択すると、ソング名が表示されます。YES/ENTER キーを押すと、最後に保存したバージョンに戻ります。REVERT 操作をキャンセルするには NO/EXIT キーを押します。

保存されているソングをロードする

保存されているソングをロードする手順を説明します。

- 1 MENU キーを押し、DATA ダイアルを使って SONG メニュー項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```

== SONG MENU ==
SAVE           :
REVERT        :
LOAD          0
  
```

- 2 DATA ダイアルを使って LOAD を反転表示し、▶カーソルキーを押します。

```

-- SONG LOAD --
M@Blues      118M
GoHome      ←224M
  
```

- 3 DATA ダイアルを使ってロードしたい曲にカーソルを合わせ (←印が付いているソングは現在ロード中のソングです)、YES/ENTER キーを押します。

現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。

ソングを消去する

ソングを消去することができます。ディスクの空き容量が少なくなった場合、不要なソングを消去しましょう。

- 1 SONG メニューから ERASE を選択します。

```

-- SONG ERASE --
M@Blues      118M
GoHome      ←224M
  
```

- 2 DATA ダイアルを使って消去したいソングにカーソルを合わせ、YES/ENTER キーを押します。

- 3 "Are you sure?" と表示されますので、YES/ENTER キーを押します。

ソングが消去されます。

キャンセルする場合は NO/EXIT キーを押します。

現在ロード中のソングを消去した場合、リスト上の最初のソングが自動的にロードされます。

注意

これから先に使用することがない不要なソングだけを消去してください (消去操作は取り消しできません)。本機は、USB 接続したパソコンにソングをバックアップすることができますので、使う可能性があるソングを消去する場合、消去前にバックアップしておくといでしょう。

ソングを管理する

複数のソングをまとめて消去する

以下の手順で、消去するソングを複数指定することができます。

- 1 SONGメニューから**ERASE**を選択します。
- 2 DATAダイアルを使って消去したいソングを反転表示します。
- 3 INSERTキーを押します。ソング名の脇にチェックマークが付きます。
- 4 上記の操作を繰り返して、すべての消去したいソングにチェックマークを付けます。
- チェックマークを外すには、**SHIFT**キーを押しながら**INSERT (DELETE)**キーを押します。
- 5 **YES/ENTER**キーを押します。
- 6 "Are you sure?"と表示されますので、再度**YES/ENTER**キーを押します。

チェックマークの付いたソングがすべて消去されます。

キャンセルする場合は**NO/EXIT**キーを押します。

すべてのソングを消去した場合、新しいソングが自動的に作成されます。
パーティションには常に少なくとも1つソングが存在します。

ヒント

コピーなどの操作でも、同じ方法で複数のソングを選択することができます。

ソング情報

ソング名、現在のパーティション、録音残時間を簡単に見ることができます。

- 1 ホーム画面表示中、**NO/EXIT**キーを押したままにします。

NO/EXITキーを押している間、ソング情報が以下のように表示されます。

```
-- Song Info. --  
Part   : Part01  
Song   : MYBLUES  
RecRem: 1269 min
```

Part : 現在のパーティション

Song : ソング名

RecRem : パーティションの録音残時間 (分)

その他のソング操作

その他のソング操作については「高度なソング管理」(38ページ)をご覧ください。

入力をアサインする

DP-01において「入力をアサインする」ということは、2つの入力（AとB）をどのトラックにリンクするかということです。

本機では同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力を2つのトラックに同時にアサインすることもできます（この場合はもう一方の入力は使用できません）。2つの入力を同じトラックにアサインすることはできません。

メモ

フロントパネルの2系統の入力の向かって左側を入力A、右側を入力Bと呼びます。

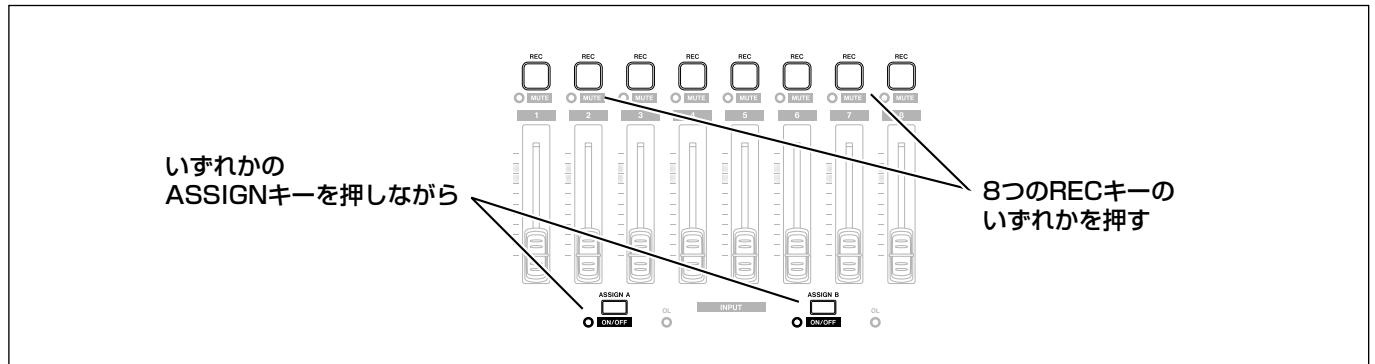


図 1.7：入力をトラックにアサインする

- 1 アサインする入力信号（AまたはB）に対応するASSIGNキーを押しながらアサイン先のトラックのRECキーを押します。

RECキーが速く点滅します。

- 入力を別のトラックにアサインしたい場合、まず現在のアサインをクリアしてから（以下参照）、改めて入力のアサインを行ないます。

ASSIGNキーを押したままにすると、すでに入力のアサイン先に指定されているトラックのRECキーが点滅します。

ヒント

SHIFTキーを押しながらASSIGNキー（AまたはB）を押すと、入力のオン／オフが切り換わります（オン時にインジケータ点灯）。ノイズを低減するために、使用しない入力をオフにしておくことをお勧めします。

アサインをクリアする

- 1 ASSIGNキーを押したままにして、現在のアサインを確認します。その状態で点滅しているRECキーを押します。

点滅していたRECキーが消灯します。

レコーディング

レコーディング

録音ソースを接続して、入力をトラックにアサインしたら、いよいよレコーディングです。

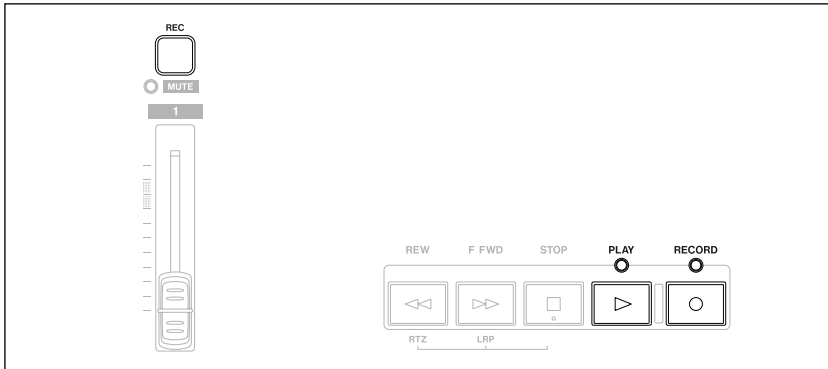


図 1.8 : トラックに録音する

- 1 録音するトラックの**REC**キーを押します。
キーがゆっくりと点滅します（この状態を「録音待機状態」と言います）。
 - 2 **RECORD**キーを押しながら**PLAY**キーを押します。
RECORDインジケーターが赤く点灯し、**PLAY**インジケーターが緑色に点灯します。トラックの**REC**インジケーターが点滅から点灯に変わります。
 - 3 録音が終わったら**STOP**キーを押します。
 - 4 録音を開始した位置に戻すには、**STOP**キーを押しながら**F FWD**キーを押します。（**LRP** = Last Recording Position機能）
ゼロポイントに戻すには、**STOP**キーを押しながら**REW**キーを押します。（**RTZ** = Return To Zero機能）
 - 5 **PLAY**キーを押して、録音したトラックを再生します。
トラックフェーダーと**MASTER**フェーダーを使って、再生レベルを調節します。最終的なモニター音量はヘッドホンつまみ、またはモニターシステムのボリュームを使って調節します。
パンつまみを使って、左右スピーカー間における各トラック信号の定位を設定します。パンつまみを回していくとセンター位置でクリック感があります。
イコライザーつまみ（**EQ HIGH**と**EQ LOW**）を使って、それぞれ高音と低音のトーンコントロールを行ないます。パンつまみと同様、センター位置でクリック感があります。この位置（センター）ではトーンコントロールがオフになります。
- 録音したサウンドに満足できなかったら、上記の手順を初めから繰り返します。
 - 録音したサウンドが気に入ったら、トラックの**REC**キーを押して録音待機を解除します。そして入力を別のトラックにアサインし、そのトラックを録音待機にして、録音を行ないます。
 - **REW**キー／**F FWD**キーを押すと、早戻し／早送りを行ないます（テープレコーダーのように）。これらのキーを押したままにすると、早戻し／早送りのスピードが速くなります。**STOP**キーを押すと停止します（テープレコーダーと同様）。

メモ

DP-01FXおよびDP-01FX/CDには入力用のエフェクター（**MULTI**）が装備されています。詳しくは「第3章 DP-01FXの付加機能」（58ページ）をご覧ください。

メモ

フェーダーや他のミキサーつまみは、録音済みトラックの再生出力信号をコントロールします。入力信号はコントロールされません。

ヒント

イコライザーつまみの周波数設定を変更することができます。詳しくは「EQの設定」（27ページ）をご覧ください。

より高度な機能

ここでは録音時の高度な機能について説明しますが、機能の紹介にとどめません。それぞれの機能の詳細については「高度なテクニック」で説明します。

マークなどを使ったロケート機能

「レコーディング」(20ページ)ではソングの位置を移動する方法をいくつか説明しましたが、ロケーションマークを使うと、マーク間をスキップしたり、希望のマーク位置に直接ロケートすることができます。

- 詳しくは「ロケート機能」(24ページ)をご覧ください。

パンチイン／アウト

パンチイン／アウトでは、レコーダーが再生モードからそのまま止まらずに録音モードに入り(パンチイン)、録音モードから止まらずに再生モードに入ります(パンチアウト)。

DP-01では3通りの方法でパンチイン／アウトを行なうことができます。

- 少なくとも1トラックが録音待機状態(RECキーが点滅)で、ソングを再生しているとき、**RECORD**キーを押すとパンチインが実行されます。録音中に**PLAY**キーを押すと、パンチアウトが実行されます。
- リアパネルの**PUNCH**端子にフットスイッチを接続している場合で、少なくとも1トラックが録音待機状態(RECキーが点滅)のとき、フットスイッチを押すたびに再生と録音が切り換わります。
- あらかじめパンチインポイントとパンチアウトポイントを設定しておき、自動的にパンチイン／アウトを実行することもできます。詳しくは「IN／OUTポイント」(26ページ)および「オートパンチイン／アウト」(28ページ)をご覧ください。

トラック数を増やすテクニック

DP-01には8つのトラックがありますが、8トラックでは足りない場合もあるでしょう。

そんなときは、録音済みトラックを再生してステレオミックスを作り、それを別のトラックに録音します(トラックバウンス)。そして録音済みトラックには新たなソースを録音します。このテクニックにより、実質的にトラック数を増やすことができます。詳しくは「トラックバウンス」(30ページ)をご覧ください。

トラック編集

DP-01はディスクレコーダーですので、テープレコーダーでは到底不可能なような編集が可能です。

オーディオデータのコピー、カット、ペーストといった本機で可能な編集操作については「トラックを編集する」(46ページ)をご覧ください。

操作の取り消し(UNDO)

多くのコンピュータシステムのように、本機の操作の多くは取り消し(UNDO)が可能です。たとえば消すべきでない個所に誤って上書きしてしまったレコーディング操作を取り消すことができます。

“取り消し”(UNDO)および“取り消しの取り消し”(REDO)に関する詳細は「操作を取り消す(UNDO)」(51ページ)をご覧ください。

ミックスダウンとマスタリング

ミックスダウンとマスタリング

ミックスダウンとマスタリングは曲作りの最終段階です。本機では作成したマスターオーディオファイルをステレオレコーダーに録音できるほか、WAVファイル形式に変換してパソコンにエクスポートし、パソコン上でさらにサウンド処理やレコーディングを行なうこともできます。(→ 45ページ「マスターミックスをエクスポートする」)

ミックスダウン

録音した個々のトラックの音質、音量、定位などを調整し、それらをミックスして曲としてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

ミキシングに決まったルールはありません。自分が気に入って、他の人も気に入るようなミックスを作りましょう。

- 8本のトラックフェーダーを使ってトラックの相対バランスを調節します。そして赤い**MASTER**フェーダーを使って全体のレベルを調節します。
ディスプレイの右にあるL/Rメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。大きすぎると音が歪みます。
- **EQ HIGH**つまみと**EQ LOW**つまみを使って、トラックごとに高音と低音を調節します。
- 外部エフェクターを使うには本機の**SEND**端子と**RETURN**端子をエフェクターに接続します。本機の各トラックの**EFFECT SEND**つまみを使ってエフェクターに送るトラック信号のレベルを調節します。エフェクトをかけたくないトラックは**EFFECT SEND**つまみを絞ります。**EFFECT RETURN**つまみを使って、エフェクターからのリターンレベルを調節します。
- **PAN**つまみを使って、ステレオミックスにおける各トラック信号の左右の定位を設定します。
- トラックのサウンドをカットするには、**SHIFT**キーを押しながらトラックの**REC**キーを押します。**MUTE**インジケーターが点灯してトラックがミュートされます。ミュートを解除するときも**SHIFT**キーを押しながらトラックの**REC**キーを押します。

ヒント

ミックスダウンの出来栄を左右する最も重要な機材は、自分の耳だと思ってください。

ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソロの間に徐々に音量を上げる、といったこともやってみましょう。

メモ

DP-01FXおよびDP-01FX/CDの場合、外部のエフェクターの代わりに内蔵のリバースユニットを使うことができます。(→ 64ページ「リバース」)

ヒント

2つのトラックに同じパートの別のテイクを録音した場合、ミュート機能を使って2つのテイクを比較チェックすることができます。

メモ

ディスプレイのトラックメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、トラックフェーダーを動かしてもメーターのふれは変わりません。

マスタリング

納得のいくミックスができれば、実際のステレオレコーディングを行いません。この工程がマスタリングです。ミックスされたマスターステレオトラックを作成します。00:00:00:00（ゼロポイント）から始まり、OUTポイントまで続きます。

ミックスされたステレオマスターは、ソングの一部としてディスク上に保存されます。

- マスタリングを実行する前に、OUTポイントを設定する必要があります。OUTポイントはマスタリングプロセスを停止するポイントです。（→ 25ページ「IN/OUTポイント」）

- 1 **MASTER**キーを押して点滅させます。
- 2 **RECORD**キーを押しながら**PLAY**キーを押します。

ステレオマスタートラック上にレコーディングが始まります（**RECORD**インジケータと**PLAY**インジケータが点灯します）。

必要に応じてミックスの操作（フェーダー、パンなど）を行いません。ここでの操作は最終のマスターステレオトラックのサウンドに影響を与えません。

再生位置がOUTポイントに到達すると、レコーディングが停止します。

- 3 **MASTER**キーを押して点灯させます。この状態で**PLAY**キーを押すと、いま作成したステレオマスターミックスを聴くことができます。このミックスはアナログ出力とデジタル出力から出力されますので、外部のステレオレコーダーに録音することができます。

- 4 納得のいくミックスを作成できたら、**MASTER**キーを押して消灯し、マスタリングモードを終了します。

ミックスをやり直したい場合、**MASTER**キーが点滅するまで押して、ミックス録音をやり直します。新しいミックスが以前のミックスを上書きします。

- 保存されているソングにすでにステレオマスターミックスが録音されている場合、そのソングをロードしてから**MASTER**キーを点灯するまで押して**PLAY**キーを押すことにより、いつでもステレオマスターミックスを再生することができます。
- 再生しているステレオマスターミックスに**STEREO MIX**入力信号をミックスして、アナログ出力から出力することができます。したがって、本機にMIDI同期したドラムマシンやMIDI音源の出力を**STEREO MIX**端子に接続することにより、ステレオマスターミックスとこれらの音をミックスして外部ステレオレコーダー（カセット、CD、MD、コンピュータのオーディオプログラムなど）に録音することができます。
- ステレオマスターミックスをトラック1～8のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。（→ 50ページ「CLONE TRACK（トラックの複製）」）

メモ

DP-01がマスタリングモードのとき（**MASTER**キーが点灯または点滅時）、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようすると、ポップアップメッセージ（"In Master Mode"）が表示されます。

メモ

STEREO MIX端子に入力される信号をモニターすることができますが、マスタートラックに録音することはできません。

メモ

MASTERキーが点灯しているとき、**MASTER**フェーダー以外のミキサー機能は使用できません。

ヒント

DP-01で作成したマスターミックスをファイルとして保存するには、USB経由でコンピュータに転送します。（→ 45ページ「マスターミックスをエクスポートする」）

第1章では基本的な操作／機能を説明しましたが、本章ではさらにDP-01を活用するための操作／機能を紹介します。

ロケート機能

ソング内のいろいろな位置にロケートする方法を説明します。

ダイレクトロケート

DP-01のディスプレイ上部には、現在のレコーダー位置が「時：分：秒：フレーム」として時間表示されています（フレームは30フレーム）。

- 1 DP-01が停止中でホーム画面表示中、**DATA**ダイヤルを回します。

時間表示が点滅します。

- 2 ◀/▶カーソルキーを使って、時間桁間でカーソル（下線）を移動します。

カーソル位置の桁の値を編集することができます。

下図の例では「秒」桁が選択されています。

```
ABS 00:02:59:20
```

- 3 **DATA**ダイヤルを使ってカーソル桁の値を変えます。

それぞれの桁は自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえばプラス方向にダイヤルを回転して59秒から0秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。**DATA**ダイヤルを使うと時間表示が点滅します。数秒間**DATA**ダイヤルに触れないか、または**YES/ENTER**キーを押すと、点滅が止まります。

- 4 別の桁を編集するには、◀/▶カーソルキーを使って桁を移動し、**DATA**ダイヤルを使って値を変更します。

- 5 希望の時間値を設定後**PLAY**キーを押すと、その位置から再生が始まりません。

ロケーションマーク

DP-01では、1つのソングにつき999ポイントのロケーションマークを設定することができます。パースの始まるポイント、ボーカルの入るポイントといった個所にマークを付けておくと便利です。

ロケーションマークを設定するには

（停止中、録音中、再生中に）マークを設定したい位置で**INSERT**キーを押すか、または**SHIFT**キーを押しながら**LOCATE (SET LOC)**キーを押します。

ホーム画面の2行目にマーク番号が表示されます。表示されるマーク番号は現在位置のマークまたは直前のマークの番号です。

```
ABS 00:02:59:20
M023
```

メモ

DP-01は現在の位置をバー／ビート単位で表示することもできます。（→ 32ページ「バー／ビートを基準に作業する」）

メモ

登録順にマーク番号が付きます。ソング内の位置順ではありません。したがってマーク999がマーク001より手前にあるというような場合もあり得ます。

ロケーションマークにロケートするには

再生中、停止中、早巻き中に、**LOCATE**キーを押しながら**REW**キーまたは**F FWD**キーを押すと、ソング内の手前または次のロケーションマークにロケートします。録音中はこの操作ができません。

またロケーションマークリストから選ぶ方法もあります。**LOCATE**キーを1秒以上押し続けると、ロケーションマークリストが表示されます（ソング内の設定位置順に表示）。

```
ABS 00:02:59:20
-- LOCATE LIST --
M0010 00m34s22
M003: 00m48s03
```

DATAダイアルを使って希望のロケーションマークを選択して**YES/ENTER**キーを押すと、そのポイントにロケートします。

ロケーションマークを削除するには

レコーダーが停止中に、削除したいマークポイント（またはマークポイントより少し後）にロケートします。そして**SHIFT**キーを押しながら**INSERT (DELETE)**キーを押します。

ロケーションマークを編集するには

ロケーションマークを設定した後で、マークポイントの時間を編集することができます。

- 1 **LOCATE**キーを1～2秒押し続けてロケーションマークリストを表示します。
- 2 **DATA**ダイアルを使ってマークを選択し、▶カーソルキーを押します。

```
--- Trim M001 ---
00m34s22f0
```

- 3 **DATA**ダイアルを使って時間値を、1/10フレーム単位（いちばん右の桁）で増減します。

ただし手前のマークポイントより手前、または次のマークポイントより後にポイントを設定することはできません。

- 4 編集を終えたら**YES/ENTER**キーを押します。

編集した値が確定し、そのポイントにロケートします。画面はホーム画面に戻ります。

YES/ENTERキーを押す代わりに**NO/EXIT**キーを押すと、編集がキャンセルされてロケーションマークリスト表示に戻ります。

IN／OUTポイント

INポイントとOUTポイントはオートパンチイン／アウトにおけるパンチインポイントとパンチアウトポイントとして使われるほか、リピート再生やトラック編集の範囲設定（始点と終点）に使われるポイントです。録音時、再生時、停止時のいずれでも、これらのポイントを設定することができます。

INポイント／OUTポイントを設定するには

SHIFTキーを押しながら**IN (SET IN)**キー／**OUT (SET OUT)**キーを押します。

メモ

この操作は取り消し（UNDO）できません。

ヒント

一般に「トリミング」と呼ばれています。

メモ

マークは時間順に表示されます。番号順ではありません。

ヒント

1/10フレームは1/300秒、つまり約3.3ミリ秒です。

ロケート機能

INポイント／OUTポイントにロケートするには

INキー／OUTキーを押します。

INポイント／OUTポイントを編集するには

SHIFTキーを押しながらTRACK EDIT (POINT EDIT) キーを押すと、以下の画面が表示されます。

```
--- POINT EDIT ---  
IN POINT      0  
OUT POINT     :  
TO POINT      :
```

- 1 DATAダイアルまたは▲／▼キーを使って、編集したいポイントを選択し、▶カーソルキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってポイントを編集します。編集単位は1/10フレームです。
- 3 編集を終えたらYES/ENTERキーを押します。

メモ

INポイントとOUTポイントはトラック編集でも使われます（トラック編集ではTOポイントも使われますが、これもIN／OUTポイントと同じ方法で設定します）。

メーターを使う

メーターによって、DP-01のオーディオのレベルをチェックすることができます。ここではメーターに関して役立つ情報を記します。

メーターは信号のレベルを監視するためのものですが、DP-01に信号が入力されているかどうかをチェックするときにも使うことができます。たとえばモニターに何も聞こえないのに入力メーターが振れている場合、DP-01には信号が入力されていることとなります（この場合、モニター機器の設定に問題がある可能性があります）。

まず最初に覚えておいていただきたいことは、メーターが常に一番上まで点灯してはいけい、ということです。もし常に一番上まで点灯していたら、それはレベルが高すぎるということになります。サウンドも歪んでいるはずで、デジタル歪みは（真空管アンプの歪みなどと違って）不快なサウンドですので、避けなければなりません。

入力メーター(INPUT A, B)

左の2本のメーターはDP-01の入力（AとB）の入力レベルを表示します。フロントパネルのレベルつまみ、またはソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

トラックメーター(TRACK 1-8)

これらのメーターはトラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。

フェーダーはトラックに送られる信号のレベルをコントロールしませんので、メーター表示はフェーダーの位置によって影響されません。

マスターメーター(L, R)

常にマスターレベルを表示します。マスターレベルはMASTERフェーダーによってコントロールされます。

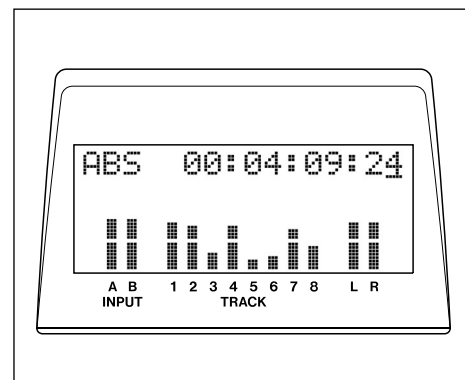


図2.1 : DP-01のメーター

メモ

トラックメーターは動作状態に応じて下記の信号のレベルを表示します。

- ・ RECキー消灯時： 再生信号
- ・ RECキー点滅でPLAY状態： 再生信号
- ・ RECキー点滅でPLAY以外の時： 入力信号
- ・ RECキー点灯時（録音中）： 入力信号

メーターの外観を変える

メーターの外観を変えることができます。

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってPREFERENCEメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

```

-- PREFERENCE --
Meter ▶ S.Fat
Pre   : 3.5Sec
Post  : 1.8Sec ▼
    
```

- 2 ▲/▼カーソルキーを使ってMeter項目を選択し、DATAダイアルを使って以下の中からメーターの外観を選択します。

- S.Fat : 短くて太いメーター
- S.Slim : 短くて細いメーター
- L.Fat : 長くて太いメーター
- L.Slim : 長くて細いメーター

メーターの動作は同じです。外観が異なるだけです。

EQの設定

DP-01では各チャンネルごとにイコライザー (EQ HIGHとEQ LOW) の周波数を設定することができます。

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってPREFERENCEメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。
- 2 ▲/▼カーソルキーを使ってEQ FRQ項目を選択します。

```

-- PREFERENCE --
Post   : 1.5Sec
EQ FRQ
NSP    : 10 ▲
    
```

- 3 ▶カーソルキーを押します。

```

-- EQ FREQUENCY --
Source ▶ Track1
High   : 10kHz
Low    : 100 Hz
    
```

- 4 ▲/▼カーソルキーを使って項目を選択し、DATAダイアルを使って値を設定します。以下に項目と値を示します。

- Source : Track 1～Track 8の中から、EQ周波数を設定するトラックを選択します。
- High : EQ HIGHの周波数を1.7kHz～18kHzの範囲から選択します。
- Low : EQ LOWの周波数を32Hz～1.6kHzの範囲から選択します。

ヒント

この設定機能のおかげで、DP-01には実質上パラメトリックEQが搭載されていると言えます。

この設定をうまく行なうことにより、トラックごとに希望の周波数ポイントを強調したりカットすることができます。

メモ

左の画面例にある"NSP"項目はDP-01FXおよびDP-01FX/CDの項目です。DP-01ではこの項目が表示されません。

オートパンチイン／アウト

オートパンチイン／アウト

「パンチイン／アウト」(21ページ)で述べたように、DP-01では3通りのパンチイン／アウトのやり方があります。走行中に**PLAY**キーまたは**RECORD**キーを押す方法、および走行中にフットスイッチを押す方法は、いずれも手動による方法です。ここではもう一つの方法、オートパンチイン／アウトを詳しく説明します。

リハーサル

DP-01のオートパンチイン／アウトでは、実際に録音を行なう前にリハーサルを行なうことができます。リハーサルでは実際の録音は行なわれませんが、オートパンチイン／アウトと同じようにモニターが切り換わります。

- 1 あらかじめ**IN**ポイントと**OUT**ポイントを設定します。(→25ページ「IN／OUTポイント」)

録音を開始したいポイントを**IN**ポイント、録音を終了したいポイントを**OUT**ポイントにします。

- 2 入力(**A**、**B**または両方)をトラックにアサインし(→19ページ「入力のアサインする」)、トラックを録音待機にします(=トラックの**REC**キーを押して点滅させます)。

- 3 **AUTO PUNCH**キーを押して点灯させます。

- 4 **RHSL**キーを押して点灯させます。

- 5 **PLAY**キーを押します。

INポイントの手前のプリロールポイントから再生が始まります(**PLAY**インジケータ点灯)。

INポイントまで来ると、録音待機トラックの再生信号が聞こえなくなります。そして**RECORD**インジケータが点滅を始めます。

OUTポイントまで来ると、録音待機トラックの再生信号が再び聞こえるようになります。そして**RECORD**インジケータが消灯します。

ポストロールポイントまで再生すると、レコーダーが停止します。

次にリハーサルまたは本番を行なうときは、プリロールポイントから再生が始まります。

ヒント

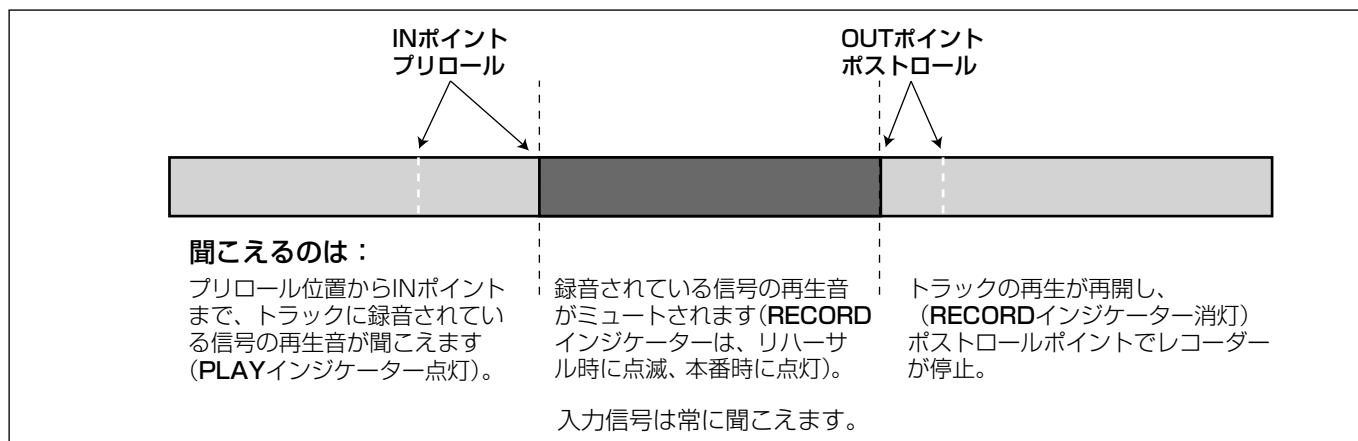
AUTO PUNCHインジケータ消灯時に**RHSL**キーのみを点灯させて、レコーディングのシミュレーションを行なうこともできます。

ヒント

失敗したパートをオートパンチイン／アウトで修正する(置き換える)場合、エフェクターやEQが以前の録音と同じ設定であることを確認してください。

ヒント

IN／**OUT**ポイントの位置を変更したい場合、**AUTO PUNCH**キーを押してインジケータを消灯してから**IN**／**OUT**ポイントを編集してください。(→25ページ「**IN**／**OUT**ポイント」)



- 6 必要に応じて、リハーサルを何度でも繰り返すことができます。

ヒント

REPEATキーを押してリピートモードにした状態(**REPEAT**インジケータ点灯)でリハーサルを行なうと、プリロールポイントとポストロールポイント間で繰り返しリハーサルを行ないます。

パンチイン／アウトの実行

納得が行くまでリハーサルを行ったら、パンチイン／アウトの本番を実行します。

- 1 **RHSL** キーを押してインジケータを消灯させます (**AUTO PUNCH** インジケータは点灯のまま)。
- 2 **PLAY** キーを押します。
プリロールポイントから再生が始まります。
IN ポイントまで来ると、録音モードになります (**RECORD** インジケータが点灯します)。
OUT ポイントまで来ると、録音から再生モードになります (**RECORD** インジケータが消灯)。
ポストロールポイントまで再生すると、レコーダーは停止します。
そしてオートパンチイン／アウトモードが解除されます (**AUTO PUNCH** インジケータが消灯)。
- オートパンチイン／アウトがうまく行かず、もう一度実行したい場合、**AUTO PUNCH** キーを押してインジケータを点灯してから、再度 **PLAY** キーを押します (上記の手順2)。

プリロールタイムとポストロールタイムの設定

初期設定では、プリロールタイムは2秒、ポストロールタイムは1秒に設定されています。これらの時間を変更することができます。

- 1 **MENU** キーを押し、**DATA** ダイアルを使って **PREFERENCE** メニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

```

-- PREFERENCE --
Meter: S.Fat
Pre   ↓ 3.5Sec
Post  : 1.8Sec ▼
    
```

- 2 ▲/▼カーソルキーを使って **Pre** 項目または **Post** 項目を選択します。
- 3 **DATA** ダイアルを使って値を変更します。
- 4 設定を終えたら、**NO/EXIT** キーを押します。
設定が有効になります。

ヒント

プリロールおよびポストロールタイムは1.0～9.9秒の範囲 (0.1秒ステップ) で設定可能です。

トラックバウンス

トラックバウンス

DP-01における「トラックバウンス」とは、録音済みトラックをミックスして、**MASTER** フェーダーを経由して未使用のペアトラックに録音することを言います。

下図はトラックバウンスを行なった例です。

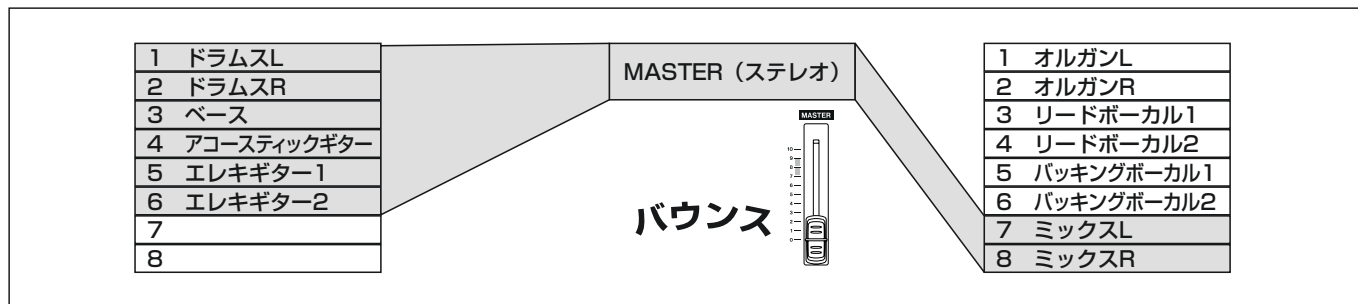


図2.2：トラックバウンスの例

上図の例では、最初にDP-01のトラック1～6に、ドラムス（ステレオ）、ベース、2台のリズムギター（1台はアコースティックギター、もう1台はエレキギター）、およびリードギターが録音されています。さらにオルガン（ステレオ）、リードボーカル（2テイク）、バックアップボーカル（2人）を加えたいのですが、トラックはあと2つしか残っていません。

そこで、トラック1～6（バウンス元）をまとめてトラック7-8（バウンス先）に録音することにします。

- 1 録音済みトラック（上記例ではトラック1～6）が録音待機状態でないことを確認します。
 - 2 **BOUNCE**キー（**MASTER** フェーダー上部）を押して点灯させます。
 - 3 バウンス先のトラック（上記例ではトラック7と8）の**REC**キーを押して録音待機にします。
 - 4 バウンス元のトラック（上記例ではトラック1～6）のフェーダー、EQ、パンを使ってステレオミックスを作ります。
 - 5 **MASTER**レベルを使ってミックス全体のレベルを調節します。ディスプレイ右端のLとRのメーターを見ながら、レベルが最適になるように調整します。このとき、バウンス先のトラックはミュートしておいてください。
 - 6 レコーダーを曲の頭に戻します。
 - 7 準備が整ったら、**RECORD**キーを押しながら**PLAY**キーを押して録音を始めます。
トラックバウンスが実行されます。
 - 8 曲が終わったらレコーダーを停止し、バウンス先の**REC**キーを押して消灯します。
- トラックバウンスを終えたら、バウンス先のトラックをモニターしながらバウンス元のトラック（上記例ではトラック1～6）に新しい録音を行なうことができます。

ヒント

一般的にはバウンス先として2つのトラックを選択しますが（ステレオミックスにするため）、バウンス先を1つのトラックにすることもできます（モノラルミックスになります）。

ヒント

バウンスを行なう前にソングをコピーして別の名前を付けて保存することにより、オリジナルトラックをキープしておくことができます。（→ 38ページ「ソングをコピーする」）

ヒント

オートパンチン／アウト機能と組み合わせて、ソングの一部（**IN**ポイントと**OUT**ポイント間）のみをバウンスすることもできます。（→ 28ページ「オートパンチン／アウト」）

リピート

リピート機能を使って、繰り返し再生を行なうことができます。またはオートパンチイン／アウトのリハーサル機能と組み合わせることにより、リハーサルを繰り返すことができます。

1 リピートしたい区間の始点と終点を、それぞれ**IN**ポイントと**OUT**ポイントとして設定します。(→ 25ページ「IN／OUTポイント」)

2 **REPEAT**キーを押してインジケータを点灯させます。

INポイントから再生が始まります。**OUT**ポイントまで来ると、所定の間隔を置いてから(その間は**PLAY**インジケータが点滅)、再び**IN**ポイントから再生が始まります。

以後、**IN**ポイントと**OUT**ポイント間を繰り返し再生します。

なお、**OUT**ポイントまで再生してから再び再生を始めるまでの間隔を設定することができます(→ 31ページ「リピートの間隔を設定する」)

3 リピート機能を解除するには**REPEAT**キーを押して、インジケータを消灯させます。

メモ

REPEATインジケータ点灯中はこれらのポイントを設定できません。

メモ

オートパンチイン／アウトのリハーサルはリピートすることができますが、オートパンチイン／アウトの本番をリピートすることはできません。

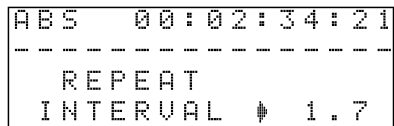
メモ

AUTO PUNCHインジケータ、**RHSL**インジケータおよび**REPEAT**インジケータのすべてが点灯しているときに、**RHSL**キーを押してオートパンチイン／アウトの実行モードにすると、**REPEAT**インジケータは自動的に消灯します。

リピートの間隔を設定する

リピートの間隔を0.5秒～9.9秒の範囲で設定することができます。

1 **REPEAT**キーを1秒間以上押し続けて、以下の画面を表示させます。



2 **DATA**ダイヤルを使って、リピート間隔を0.5秒～9.9秒の範囲(0.1秒単位)で設定します。

3 設定を終えたら、**REPEAT**キーを押して(長く押す必要はありません)ホーム画面に戻します。

ヒント

リピート間隔を長めに設定することにより、リピート機能を使ってリハーサルを繰り返す場合などに、ゆとりを持ってリハーサルを行なうことができます。

バー／ビートを基準に作業する

バー／ビートを基準に作業する

これまでの説明では、ロケーションマーク、オートパンチイン／アウト、リピートなどにおけるポイントの設定／管理を、時間（ABSタイム）を基準に行なってきました。DP-01では、バー／ビート基準にすることもできます。特に外部MIDI機器と組み合わせてDP-01を使うときにバー／ビート基準が便利です。

テンポの設定

バー／ビート基準を使うには、テンポと拍子を設定する必要があります。この設定に基づいて、DP-01はバー／ビート番号をソング内のポジションに対応させることができます。

- 1 停止中、MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってMIDIメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。
- 2 ▲／▼カーソルキーまたはDATAダイアルを使ってTEMPO/T.SIG項目を選択し、▶カーソルキーを押します。



設定画面が表示されます。Tempo（テンポ）とTime Sig（拍子）の2つのパラメータがあります。

- 3 ▲／▼カーソルキーを使ってパラメータを選択し、DATAダイアルを使って値を設定します。
- テンポ（BPM）は20～250の範囲で設定可能です。
 - 拍子は、分母（1小節あたりの拍数）を1～12、分子（全音あたりの拍数）を1、2、4、8に設定できます。

タイムモードを選択する

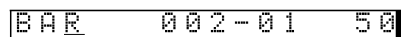
拍子とテンポを設定すると、DP-01はバー／ビートと時間を対応させることができます。

バー／ビート表示にするには：

ホーム画面で、カーソルを"ABS"に合わせます。



DATAダイアルを時計方向に回します。"ABS"が"BAR"に変わり、現在のポジションがバー／ビート単位で表示されます。テンポは右側に表示されます。



- カーソルが"BAR"にあるときにDATAダイアルを反時計方向に回すと"ABS"に戻ります。

バー／ビートによるロケート

「ロケート機能」（24ページ）での説明と同じようにロケートを行なうことができます。

バー／ビートによるトラック編集

「トラックを編集する」（46ページ）での説明と同じようにトラックを編集することができます。編集ポジションを「音楽的」に設定することができます。

ヒント

「バー」は「小節」という意味です。「ビート」は「拍」という意味です。たとえば"002-01"のようにバー／ビート表記されている場合、「2小節目の1拍目」という意味です。

メモ

ソングの先頭は、バー／ビート基準における"001-01"、時間（ABS）基準における"00:00:00:00"です。

ヒント

ロックやポップス曲の多くは4/4です。ワルツは3/4です。

ポイントの編集

画面上でバー/ビート表示になっていても、ロケーションマークの編集は時間単位で行ないます。(→ 25ページ「ロケーションマークを編集するには」)
ただしバー/ビートも併せて表示されます。

「バー/ビート」モード時に**LOCATE**キーを1秒以上押したままにすると、ロケートリストが以下のように表示されます。

```
BAR    003-02   59
-- LOCATE LIST --
M001  004-03   59
M002  007-05   59
```

編集するロケーションマークを選択すると、以下のような画面になります。「時間 (ABS)」ベースの場合と同じように、時間を編集します。バー/ビートの値を直接編集することはできません。ただし時間が変化すると、それに伴ってバー/ビート値が変化します。

```
--- Trim M001 ---
          00m15s24f0
(BAR 004-03 59)
```

メモ

IN、OUTおよびTOポイントを編集するときはバー/ビート値が表示されません。

メトロノーム

DP-01には、DP-01単体でメトロノーム音を聞ける内蔵メトロノーム機能とMIDI経由で外部の音源を発音させるMIDIメトロノーム機能が内蔵されています。

- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイヤルを使って**MIDI**メニューを選択し、
▶カーソルキーを押します。
- 2 **METRONOME**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

"Output"で"INT"を選択すると【内蔵メトロノーム】

外部の音源ではなく、DP-01に内蔵のメトロノーム音をヘッドホンおよびLINEOUTPUT L/Rに出力することができます。

```
--- METRONOME ---
Output  # INT
Mode    : Rec&Ply
IntLvl  : 100
```

Mode

RecOnly (録音時のみ)、**Rec&Ply** (録音時と再生時) から選択します。

IntLvl

メトロノームの出力レベルを0~127の範囲で設定します。(メトロノームの出力レベルはMASTERフェーダーでは調整できません。)

"Output"で"MIDI"を選択すると【MIDIメトロノーム】

MIDI経由で外部の音源を発音させます。一般的にはパーカッション系のサウンドを使います。もちろん、どのようなサウンドでも鳴らすことができます。

メモ

つぎの場合は内蔵メトロノーム音は出力しません。

- ・ **BOUNCE**キーが点灯中
- ・ **MASTER**キーが点滅中または点灯中

メトロノーム

MIDIチャンネル、通常のクリックのノート/ノートオンベロシティ、およびアクセントのノート/ノートオンベロシティを設定することができます。



リストをスクロールして下記のパラメータを設定します。

Mode

RecOnly（録音時のみ）、**Rec&Play**（録音時と再生時）の中から選択します。

MIDI Ch

MIDIチャンネルを選択します。

AccNote

各小節の1拍目のノートを設定します。C3がMIDIノート60に対応します。

AccVelo

各小節の1拍目のノートのベロシティ（音量に影響します）を設定します。

NrmNote

各小節の1拍目以外のノートを設定します。C3がMIDIノート60に対応します。

NrmVelo

各小節の1拍目以外のノートのベロシティ（音量に影響します）を設定します。

"Output"で"OFF"を選択すると

メトロノーム機能が無効になります。**Output**以外の項目は表示しません。

ヒント

チャンネル10はGM機器のデフォルトのドラムチャンネルとして定義されています。

MIDIと一緒に使う

DP-01はMIDI OUT端子を装備しています。この端子からMIDIクロックやMIDIタイムコードを出力することにより、外部のシーケンサー、ドラムマシンなどを同期させることができます。また、**MIDI OUT**端子をMIDI音源に接続することにより、メトロノームを鳴らすことができます。（→ 33ページ「メトロノーム」）

MIDI音源のオーディオ出力は、入力**A**、**B**に接続するか、またはミックスダウン時であれば**STEREO MIX**入力に接続します。

MIDIクロックなど

DP-01の**MIDI OUT**端子から、MIDIコントロールメッセージとして、MIDIクロック、ソングポジションポインター、およびスタート/ストップ/コンティニューメッセージを送信することができます。

これらはドラムマシン/リズムマシンなどのパー/ビートベースのMIDI機器と同期するときに使います。

- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**MIDI**メニューを選択し、
▶カーソルキーを押します。

メモ

この機能を使うには、DP-01側でテンポと拍子を設定する必要があります。（→ 32ページ「テンポの設定」）

2 GENERATOR項目を選択し、▶カーソルキーを押します。



3 DATAダイヤルを使って、MIDI OUT設定をOFFからCLKに切り換えます。

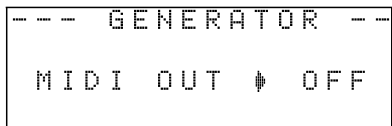
- 再生中および録音中、DP-01のMIDI OUT端子から上記のメッセージが送信されます。DP-01のMIDI OUT端子をMIDI機器のMIDI IN端子に接続します。
- 接続するMIDI楽器をMIDIクロック同期のスレーブとして使用方法については、MIDI楽器の説明書をご覧ください。

MIDIタイムコード

DP-01のMIDI OUT端子から、現在のレコーダー位置（時：分：秒：フレーム）をMIDIタイムコード情報として出力することができます。タイムコードに対応しているレコーダーやデジタルオーディオワークステーション（DAW）などとDP-01を組み合わせて動作させるときに使います。

1 MENUキーを押し、DATAダイヤルを使ってMIDIメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

2 GENERATOR項目を選択し、▶カーソルキーを押します。



3 DATAダイヤルを使って、MIDI OUT設定をOFFからMTCに切り換えます。

- 再生中および録音中、DP-01のMIDI OUT端子からタイムコードが送信されます。DP-01のMIDI OUT端子をMIDI機器のMIDI IN端子に接続します。
- 接続するMIDI楽器をMIDIタイムコード同期のスレーブとして使う方法については、MIDI楽器の説明書をご覧ください。

"Output"で"OFF"を選択すると

メトロノーム機能が無効になります。Output以外の項目は表示しません。

メモ

DP-01のMIDIタイムコードのフレームレートは30fpsに固定されています。変更することはできません。

ディスク管理

ディスク管理

DP-01 内蔵のハードディスクを管理することが可能です。必要に応じてディスクのフォーマットやリパーティション（パーティションの仕切り直し）ができます。

DP-01 のハードディスクはパーティションに仕切られています。あるパーティション上に作成されたソングを、あとから保管などの目的のために別のパーティションに複製することができます。またソングのタイプごとに別のパーティションを使うことができます。

ソングのパーティションの他に、FATフォーマットのパーティションもあります。このパーティションは、USB経由でDP-01と接続したパソコンから読み込むことができます。コンピュータ上にソングを保存する場合、ミックスをコンピュータにエクスポートする場合、またはソングにオーディオファイルをインポートする場合、このFATパーティションを介して行なわれるため、データをコピーするために2段階の操作が必要です。

アクティブパーティションを選択する

アクティブパーティションを選択します。アクティブパーティションからソングをロードすることができます。また新規のソングをアクティブパーティション上に作成することができます。

1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**DISK**メニューを選択し、**▶**カーソルキーを押します。

2 **▲/▼**カーソルキーを使って**PARTITION**項目を選択し、**▶**カーソルキーを押します。

```
-- PARTITION --
# Part01 ← 16GB
  Part02   16GB
  Part03   1GB
```

アクティブパーティションには矢印(←)が付いています。パーティションのサイズが表示されています(空き容量ではありません)。

3 アクティブにしたいパーティションにカーソル(♯)を移動し、**YES/ENTER**キーを押します。

確認メッセージ(**Are you sure?**)が表示されます。

4 再度**YES/ENTER**キーを押します。

DP-01は、現在ロード中のソングを保存し、新しいパーティションから前回ロードしたソングをロードします。そして、操作の進行に関する一連のメッセージを表示します。

ディスクをフォーマットする

この操作では、ディスクをフォーマットすると同時に、DP-01のネイティブ(ソング用)パーティションのサイズを設定することができます。

1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**DISK**メニューを選択し、**▶**カーソルキーを押します。

2 **▲/▼**カーソルキーを使って**FORMAT**項目を選択し、**▶**カーソルキーを押します。

```
-- FORMAT --
Disk Size   37GB
Parti Size  #32GB
[ENTER] -> Exe
```

3 **DATA**ダイアルを使ってパーティションのサイズを選択します。

32GB、16GB、8GB、4GBの中から選択できます(1GBは1024MBです)。

● すべてのパーティションは同じサイズです。ただし最後の1つは残ったスペースで作られますので、サイズが異なります。

注意

フォーマットとリパーティションは取り消し(UNDO)ができません。

メモ

FATフォーマット(File Allocation Table)はパソコンで読むことのできるディスクフォーマットです。

メモ

ここでは、FATパーティションを選択することはできません。

注意

この操作によってディスク全体のデータが消去されます。取り消し(UNDO)はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

メモ

ディスプレイに表示されるディスクサイズは、この例と異なる場合があります。

4 YES/ENTERキーを押します。

すべてのソングが消去されることを警告するメッセージが表示されます。

5 YES/ENTERキーを押します。

指定したパーティションサイズでディスクがフォーマットされます。

フォーマットを取りやめる場合は、YES/ENTERキーの代わりにNO/EXITキーを押します。

注意

ディスクをフォーマット中、電源を切らないでください。本機が使用不能になる可能性があります。

パーティションをフォーマットする（リフォーマム）

ハードディスクの指定したパーティションをフォーマットすることができます。パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のパーティションのみをフォーマットしたい場合にこの機能を使います。

1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってDISKメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

2 ▲/▼カーソルキーを使ってREFORM項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```

-- REFORM --
# Part01 ← 16GB
  Part02   16GB
  Part03   1GB
    
```

アクティブパーティションには矢印（←）が付いています。パーティションのサイズが表示されています（空き容量ではありません）。

3 再フォーマットしたいパーティションにカーソル（#）を移動し、YES/ENTERキーを押します。

パーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

4 YES/ENTERキーを押します。

パーティションが再フォーマットされます。

注意

この操作は取り消し（UNDO）ができません。選択したパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

FATパーティションをフォーマットする

FATパーティションはDP-01とパソコン間でデータを転送するときに使われます。パーティションサイズは固定されていて、変更することができません。

1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってDISKメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

2 ▲/▼カーソルキーを使ってFAT REFORM項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```

-- FAT REFORM --
[ENTER] -> Exe
    
```

3 YES/ENTERキーを押します。

FATパーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

4 YES/ENTERキーを押します。

FATパーティションが再フォーマットされます。

注意

この操作は取り消し（UNDO）ができません。選択されたFATパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

自動ソング作成

ディスクやパーティションをフォーマットしたあと、ブランクのパーティションには必ず新規のソングが1つ作成されます。同じように、一つしかソングが存在しないパーティションの場合、そのソングを消去すると新規のソングが1つ作成されます。つまり、パーティション上には必ずソングが存在し、いつでもレコーディング作業ができます。

高度なソング管理

ソングをコピーする

DP-01のハードディスクはパーティションに分かれています。(→36ページ「ディスク管理」)したがって、用途別またはカテゴリー別にパーティションを分けて使う、といったことができます。たとえば古いソングと新しいソング、またはボーカルのあるソングとボーカルのないソングとを別々のパーティションに保存するといった使い方が可能です。

あるソングを別のパーティションに保存するには、ソングコピー機能を使います。

- 1 SONGメニューからCOPY項目を選択します。

```
-- SONG COPY --  
# MyBlues 118M  
GoHome ←224M
```

- 2 コピーしたいソングを選択してYES/ENTERキーを押します。

```
-- SONG COPY --  
to #Part02  
Free : 16380MB  
Song : 118MB
```

- 3 DATAダイアルを使って、コピー先のパーティションを選択します。

パーティションを選ぶと、「Free」行の値(選択中のパーティションの空きスペース)が変化します。これを見て、ソングをコピーできるスペースがあるかどうかを確認することができます。

- 4 コピー先のパーティションを選択したら、YES/ENTERキーを押します。

確認のメッセージ(Are you sure?)が表示されます。

- 5 YES/ENTERキーを押します。

コピーの進行状況が表示され、終了するとSONG COPY画面に戻ります。

- ソングコピーをキャンセルしたいときは、YES/ENTERキーを押す代わりにNO/EXITキーを押します。

ヒント

複数のソングを選択することもできます。(→18ページ「複数のソングをまとめて消去する」)

ヒント

DP-01出荷時、ディスク上には3つの「ネイティブ」(ソング用)パーティションがあります。

不要なデータを削除する

DP-01のソングデータは必ずしも聞こえるパートのデータだけではありません。オーディオ編集によってカットまたは上書きをした場合、聞こえないパートのデータもソング内に含まれています。

現在ロードされているソング内の不要なデータを削除することができます。

- 1 SONGメニューからDEL/UNUSED項目を選択します。

```
-- SONG DEL/UNUSE --  
Title : MyBlues  
[ENTER] -> Exe
```

- 2 YES/ENTERキーを押します。

不要なデータが削除されます。

- 不要なデータの削除をキャンセルしたいときは、YES/ENTERキーを押す代わりにNO/EXITキーを押します。

注意

この操作は取り消し(UNDO)できません。確認してから削除を実行してください。

ソングをプロテクトする

ソングをプロテクトすると、そのソングに対して編集、録音、消去といった操作ができなくなります。

- 1 SONGメニューからPROTECT項目を選択します。

```

-- SONG PROTECT --
Title : MyBlues
Protect  OFF
[ENTER] -> Exe
    
```

- 2 DATAダイアルを使ってProtectを"ON"に設定し、YES/ENTERキーを押します。

- コピー、削除などを行なうときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソングの脇に錠アイコン (🔒) が付いています。
- プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとする、ディスプレイに"Song Protected"と表示され、操作を受け付けません。
- プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順2でProtectを"Off"に設定します。

USB接続を使う

DP-01のハードディスクのFATパーティション上のソングファイルをパソコンで読み込んだり、パソコン上のソングファイルをFATパーティションに書き込むことができます。

パソコンとDP-01間のデータ転送は常にFATパーティションを介して行なわれます。パソコンから直接「ネイティブ」（ソング用）パーティションにアクセスすることはできません。送受信には常に2段階のプロセスが必要です。

FATパーティション内には3つのディレクトリ（フォルダ）－BACKUP、WAVE、UTILITY－があります。

DP-01では以下のデータを転送することができます。

- **ソング全体**

DP-01では、ソング全体のデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。またパソコンにバックアップしたデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリに転送し、ソングデータとして復元することができます。この操作を「リストア」と呼びます。

- **WAVフォーマットのトラック**

トラック（複数可）をWAVファイルとしてパソコンにエクスポートしたり、WAVファイル（1つずつ）をパソコンからインポートすることができます。WAVファイルはDP-01のFATパーティション上のWAVEディレクトリに格納されます。

- **ステレオマスターミックス**

DP-01のステレオマスターミックスを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティション上のWAVEディレクトリから）パソコンに転送することができます。エクスポートのみ可能です。

メモ

本章で「パソコン」と表記する場合、WindowsまたはMacintoshのパーソナルコンピュータを指します。

注意

これらのディレクトリを削除したり名前を変更したりしないでください。削除や変更を行なうと本章で説明する操作ができなくなります。

メモ

UTILITYディレクトリはDP-01のシステムをアップデートするときなどに使われます。アップデートの方法についてはアップデートソフトウェアに添付の説明書をご覧ください。

USB接続を使う

必要なシステム

DP-01 と以下のパソコンを接続することができます。

- ・ マイクロソフト OS
Windows Me、Windows 2000、Windows XP
- ・ アップルコンピュータ OS
Mac OS 9.0以上、Mac OS X 10.2以上

ドライバは不要です。パソコンはDP-01 を単なるリムーバブルディスクと見なします。

ただしDP-01 とコンピュータの接続を切り離すときは、それぞれのコンピュータのUSBリムーバブルディスク接続解除方法に従ってください。それに従わずむやみに接続を解除すると、FATパーティションのデータが破壊される可能性があります。

Windows Me / Windows 2000 / Windows XP システムから切り離す場合

Windows Me、Windows 2000、Windows XPの場合、単純にUSBケーブルを外すわけにはいきません。

システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PCカードのアイコンと矢印があります。

- 1 このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。DP-01 をコンピュータから切り離すには、このポップアップバーをクリックします。
- 2 コンピュータ画面に、DP-01 の接続を安全に解除できることを告げるメッセージが表示されたら、DP-01 の **NO/EXIT** キーを押してUSBモードを「クローズ」します。（→ 40ページ「USBモードのオープンとクローズ」）

| [EXIT]->close |

- 3 DP-01 に **DISK** メニューが表示されたらUSBケーブルを外せます。
- コンピュータ画面に、DP-01 の接続を安全に解除できないことを告げるメッセージが表示された場合、USBモードを「クローズ」したりUSBケーブルを外したりしないでください。DP-01 上のファイルにアクセスしているすべてのプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行なってみてください。

Macintoshから切り離す場合

DP-01 をMacintoshシステム（OS 9またはOS X）から切り離すには、ディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグするか、「Command + E」操作を行ないます（さらにOS X 10.3では、ファインダーにリムーバブルメディアをイジェクトするためのボタンがあります）。アイコンがデスクトップから消えたら、DP-01 の接続を外すことができます。

USBモードのオープンとクローズ

DP-01 のFATパーティションを使う前に、USBモードを「オープン」状態にしてパソコンで読み込める状態にする必要があります。USBモードが「オープン」状態のとき、録音/再生などDP-01 のハードディスクを使用する操作はいつまでできません（**NO/EXIT** キー以外の操作はすべて無効です）。

メモ

DP-01 とパソコン間のデータ転送は、USB 2.0スピード（最大）で行なわれます。お使いのコンピュータがUSB 2.0ではなくUSB 1.1の場合、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。なお、最大のデータ転送スピードを得るためには、高品質のUSB 2.0ケーブルを使用することをお勧めします。

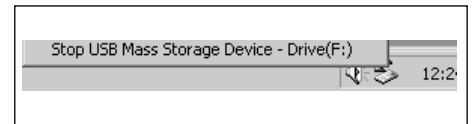


図2.3 : DP-01 を切り離す

ヒント

USBモードをオープンする前に、ソングが保存済みで、パソコンに転送するファイルをすべてFATパーティションにコピーしてあることを確認してください。

以下の手順でシステムを「オープン」します。

- 1 DP-01 とパソコンを接続します。
- 2 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**DISK**メニューを選択し、
▶カーソルキーを押します。
- 3 ▲/▼カーソルキーを使って**USB OPN/CLS**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```

--  USB OPN/CL  --
[ENTER] -> Exe
  
```

- 4 **YES/ENTER**キーを押します。

確認メッセージ ("Are you sure?") が表示されます。

- 5 再度**YES/ENTER**キーを押します。

現在ロード中のソングが保存された後、USBモードがオープンし、ディスプレイは以下のような表示になります。

```

| [EXIT]->close |
  
```

USBモードをクローズするには**NO/EXIT**キーを押します。

注意

NO/EXITキーを押す前に、コンピュータ側でDP-01の接続解除の操作をしてください。
(→ 39ページ「USB接続を使う」)

ソングのバックアップとリストア

ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。ソングのリストアは、これと逆のプロセスになります。つまり、コンピュータハードディスクからDP-01ハードディスクのFATパーティションへ転送し、ソングデータを復元します。

ソングをバックアップする

- バックアップを開始する前に、バックアップするソングを含むパーティションが選択されていることを確認してください。(→ 36ページ「アクティブパーティションを選択する」)
- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**BACKUP**メニューを選択し、▶カーソルキーを押します。
 - 2 ▲/▼カーソルキーを使って**SONG BACKUP**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

```

----  BACKUP  ----
# MyBlue   ← 127M
  BigBang  234M
  TrioInf  312M
  
```

- 3 **DATA**ダイアルを使ってバックアップしたいソングにカーソルを合わせ、**YES/ENTER**キーを押します。
- 4 ◀/▶カーソルキーや**DATA**ダイアルを使って、ソングの名前(最大8文字)を付けます。(→ 11ページ「名前を付ける」)

```

----  BACKUP  ----
File [SONG000U]
[ENTER] -> Exe
  
```

USB接続を使う

5 YES/ENTERキーを押します。

ソングがアクティブなパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます（拡張子".001"が付加されます）。ディスプレイには進行状況を示すメッセージが表示されます。

なおFATパーティションに必要な空きスペースがない場合、エラーメッセージが表示されます。

6 USBケーブルを使ってDP-01とコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。（→40ページ「USBモードのオープンとクローズ」）

7 パソコン側の操作で、DP-01のFATパーティションのBACKUPディレクトリからパソコンにバックアップファイルをコピーします。

- バックアップファイルをパソコンにバックアップしたら、DP-01のUSBモードを「クローズ」にすることができます。

- パソコンにバックアップしたファイルを、さらにCD-Rなどにバックアップすることができます。あとで、バックアップしたソングを同じDP-01または他のDP-01にリストアすることができます。このようにファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所でオーバーダブやファイナルミックスを行なうことも簡単にできます。

ソングをリストアする

リストアは基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンからDP-01にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

1 USBケーブルを使ってDP-01とコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。（→40ページ「USBモードのオープンとクローズ」）

2 パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルをDP-01のFATパーティションのBACKUPディレクトリにコピーします。

3 DP-01のUSBモードを「クローズ」します。

4 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってBACKUPメニューを選択し、▶カーソルキーを押します。

5 ▲/▼カーソルキーを使ってSONG RESTORE項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

画面にFATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。

```
---- RESTORE ----  
MYBLUE .001  
▶ BIGBANG.001  
TRIOINF.001
```

6 DATAダイアルを使ってリストアしたいファイルにカーソルを合わせ、YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存され、その後、「実際の」ソング名と確認メッセージ（Are you sure?）が表示されます。

```
| Song: BigBang |  
| Are you sure ? |
```

7 YES/ENTERキーを押します。

ソングがリストアされてロードされます。

ディスクの空きスペースが足りない場合などは、エラーメッセージが表示されます。

ヒント

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空きスペースがない場合、DP-01をパソコンに接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除するなどして空きスペースを作る必要があります。

メモ

パソコン上でソングファイルの名前を変更しないことをお勧めします。あとでファイルをDP-01にリストアするときに混乱する可能性があります。

メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

メモ

ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

トラックのインポートとエクスポート

パソコンとDP-01のFATパーティション間で、トラック個別のインポート／エクスポートが可能です。トラックのインポート／エクスポートに使われるファイルは16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式です（拡張子".WAV"が付きます）。別の形式のオーディオをDP-01にインポートする場合、事前に16ビット、44.1kHzのモノラルWAVファイルに変換する必要があります。

トラックをインポートする

トラックをインポートする前に、インポート先のパーティションを選択していることと、ソングがロードされていることを確認してください。

- 1 DP-01とパソコンを接続し、DP-01のUSBモードを「オープン」します。（→40ページ「USBモードのオープンとクローズ」）
- 2 パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルをDP-01のFATパーティションの**WAVE**ディレクトリにコピーします。
- 3 DP-01のUSBモードを「クローズ」します。
- 4 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**WAVE**メニューを選択し、▶カーソルキーを押します。
- 5 ▲／▼カーソルキーを使って**IMPORT TRACK**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

FATパーティション上に存在するソングファイルがディスプレイに表示されます。

```

-- IMPORT WAVE --
# BIGDRUMS.WAV
  BELLS .WAV
  MALEAHS.WAV
  
```

- 6 **DATA**ダイアルを使って、インポートするWAVファイルを選択し、**YES/ENTER**キーを押します。

```

-- IMPORT WAVE --
to # Track 2
Free : 4023MB
Wav : 75MB
  
```

ディスプレイに、現在アクティブなパーティションの空きスペースサイズおよび選択したWAVファイルのサイズが表示されます。

- 7 **DATA**ダイアルを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、**YES/ENTER**キーを押します。

十分な空きスペースがない場合や、ファイルのフォーマットが間違っている場合など、エラーメッセージが表示されます。

- DP-01はFATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このときファイルの先頭がソングの先頭（ゼロ時位置）に対応します。
- 他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集（ムーブ、コピーなど）を行なうことができます。（→46ページ「トラックを編集する」）

メモ

ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

メモ

インポート先のトラックは空のトラックでなければなりません。

USB接続を使う

トラックをエクスポートする

希望のトラックを16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**WAVE**メニューを選択し、
▶カーソルキーを押します。
- 2 ▲/▼カーソルキーを使って**EXPORT TRACK**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。

オーディオが記録されているソングトラックのファイルリストがディスプレイに表示されます。ファイル名から元のトラック番号がわかります。

```
EXPORT TRACK
┌ TRACK001
│ TRACK002
└ TRACK006
```

- 3 **DATA**ダイアルを使ってエクスポートするトラックを選択し、**INSERT**キーを押します。

ファイル名の脇にチェックマークが付きます。

複数のファイルにチェックマークを付けることにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。

トラックのチェックマークを外したいときは、**DATA**ダイアルを使ってそのトラックを選択し、**SHIFT**キーを押しながら**INSERT (DELETE)**キーを押します。

トラック名を編集するには：

SHIFTキーを押しながら**MENU (TITLE)**キーを押すと、以下のような画面が表示され、カーソル位置のトラックの名前を編集することができます。

```
| FILE NAME |
| [TRACK001] |
```

名前を編集し、最後に**YES/ENTER**キーを押します。(→ 11ページ「名前を付ける」)

- 4 エクスポートしたいトラックにチェックマークを付け終わったら、**YES/ENTER**キーを押します。

```
EXPORT TRACK
Free   : 4789 MB
Total  : 402 MB
[ENTER] -> Exe
```

FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先）の空きスペースおよびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。

- 5 **YES/ENTER**キーを押します。

選択したトラックが、編集した名前に拡張子".WAV"を付加したトラックファイル名でエクスポートされます。

以前に同じ名前のトラックファイルをエクスポートしている場合、確認メッセージ("Duplicate name - Are you sure?")が表示されます。**YES/ENTER**キーを押すと上書きされます。

- 6 DP-01とパソコンを接続し、DP-01のUSBモードを「オープン」します。(→ 40ページ「USBモードのオープンとクローズ」)

メモ

オーディオが記録されていないトラックはリストに表示されません。

ヒント

上記手順3でトラックを選択してから（チェックマークを付けずに）**YES/ENTER**キーを押すと、選択したトラックだけがエクスポートされます。

7 パソコン側の操作で、トラックファイルをDP-01のFATパーティションのWAVEディレクトリからパソコンにコピーします。

- トラックをパソコンにエクスポートしたら、DP-01のUSBモードを「クローズ」することができます。
- パソコンにエクスポートしたトラックを、さらにCD-Rなどにバックアップすることもできます。
- パソコンにエクスポートしたトラックの名前を、パソコン側で変更することができます。この場合、「8.3形式」に従い、拡張子".WAV"を付加することを忘れないでください。また特殊なシンボルなどを使用しないでください。
- パソコンにエクスポートしたトラックを、あとで同じDP-01または他のDP-01にインポートすることができます。

マスターミックスをエクスポートする

マスタリングを終えたステレオマスターミックス（→ 23ページ「マスタリング」）をパソコンにエクスポートすることができます。新しいマスターミックスを作成するとき、既存のマスターミックスは上書きされますので、複数の異なるマスターミックスを残しておきたい場合はパソコンに保存するとよいでしょう。

以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、マスターミックスをエクスポートするソングが現在ロードされていることを（もちろん、マスターミックスが作成されていることも！）確認してください。

- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイアルを使って**WAVE**メニューを選択し、**▶**カーソルキーを押します。
- 2 **▲**/**▼**カーソルキーを使って**EXPORT MSTR**項目を選択し、**▶**カーソルキーを押します。

デフォルトのファイル名が表示されます。この状態で編集が可能です。

```

-- EXPORT MSTR --
File [MIXST001]

[ENTER] -> Exe
    
```

- 3 **◀**/**▶**カーソルキーと**DATA**ダイアルを使って、エクスポートするマスターミックスファイルの名前を編集します。（→ 11ページ「名前を付ける」）
- 4 編集を終えたら、**YES/ENTER**キーを押します。

16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスターミックスがエクスポートされます。

- 上記手順3で編集した名前に拡張子".WAV"を付加したファイル名でエクスポートされます。
- 5 USBケーブルを使ってDP-01とコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。（→ 40ページ「USBモードのオープンとクローズ」）
 - 6 パソコン側の操作で、DP-01のFATパーティションのWAVEディレクトリ内のマスターミックスファイルをパソコンにコピーします。
 - ファイルをコピーしたら、DP-01のUSBモードを「クローズ」します。

メモ

マスターミックスが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

メモ

エクスポートをキャンセルしたい場合は、**NO/EXIT**キーを押します。

トラックを編集する

トラックを編集する

DP-01のようなディスクベースのレコーダーならではの機能として、オーディオ編集機能があります。以前のテープレコーダーの編集は高度なテクニックが必要だったばかりでなく、ミスを犯した場合にやり直しができず、またマルチトラックの編集はほとんど不可能でした。

DP-01ではソングの編集、素材のコピーや移動など、思いのままにできます。しかも「ノンディストラクティブ・エディティング（非破壊編集）」と呼ばれ、操作によって元のデータは壊されないため、アンドゥによって簡単にやり直すことができます。

これらはコンピュータにおけるワープロソフトの編集によく似ています。文字の代わりにオーディオデータを編集する、と考えれば、簡単に理解できるでしょう。

メモ

編集機能は取り消し（UNDO）することができます。（→ 51 ページ「操作を取り消す（UNDO）」）

これらの機能を使って全トラックのすべての素材を削除した場合でも、数回のキー操作ですべてを元に戻すことができます。

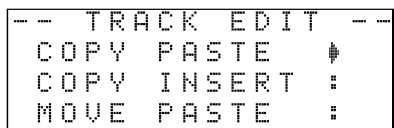
IN、OUT、TO

すでにパンチイン／アウトやロケート機能の説明の中で、IN、OUTポイントの使い方を説明しました。これらのポイントにTOポイントを加えた3つのポイントをトラック編集操作に使います。

- INポイントはトラック編集時の編集対象セクションの始点になります。
- OUTポイントはトラック編集時の編集対象セクションの終点になります。
- TOポイントはコピーやムーブ操作におけるペースト先や移動先のポイントになります。

編集の基本操作

- 1 DP-01が停止中（再生中／録音中以外）であることを確認します。
- 2 **TRACK EDIT** キーを押します（**DATA** ダイアルの左下にあります）。



トラック編集メニューが表示されます。

- 3 **DATA** ダイアルを使って希望のトラック編集機能を選択し、▶カーソルキーを押します。
- 4 設定パラメータの値を選択します。
各機能のパラメータの詳細は、次ページ以降をお読みください。
- 5 **YES/ENTER** キーを押して、機能を実行します。
NO/EXIT キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT** メニュー画面に戻ります。

トラック編集機能

DP-01には以下のトラック編集機能があります。

- COPY→PASTE
- COPY→INSERT
- MOVE→PASTE
- MOVE→INSERT

- OPEN
- CUT
- SILENCE
- CLONE TRACK
- CLEAN OUT

以下に各編集機能ごとに詳しく説明します。

COPY → PASTE

コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイントにペーストします。

この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。

この操作によって、コピー先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、コピー先トラックの長さは変化しません。

1回の操作で、複数回コピーすることができます。つまり、コピー先トラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けて上書きコピーされます。

- 設定パラメータは以下の3つです。

Src.Trk

コピー元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

Dst.Trk

コピー先のトラックを選択します。Src.Trkで何を選択したかによって選択肢が変わります。

Src.Trkとしてシングルトラックを選択した場合はDst.Trkの選択肢は1～8（シングルトラック）、Src.Trkとしてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、Src.Trkとして1-8（全トラック）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

Times

コピーしたセクションを何回ペーストするかを選択します。

1～99の中から選択できます。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

COPY → INSERT

コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイント以降にインサートします。

この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。

この操作によって、コピー先トラックのTOポイントにコピーデータがインサートされます（上書きではありません）。コピー先トラックのTOポイント以降に録音されていたデータは、新しい素材がインサートされた分だけ後ろにずれます。したがって、コピー先トラックの長さが長くなります。

1回の操作で、複数回インサートすることができます。つまり、コピー先トラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けてインサートされます。

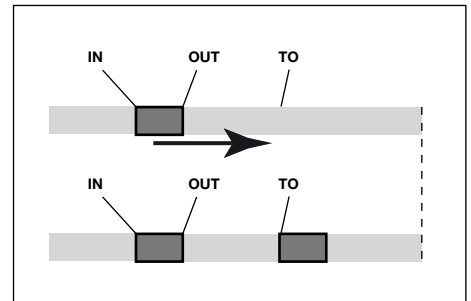


図2.4：コピー／ペースト
(同一トラック内での編集の場合)

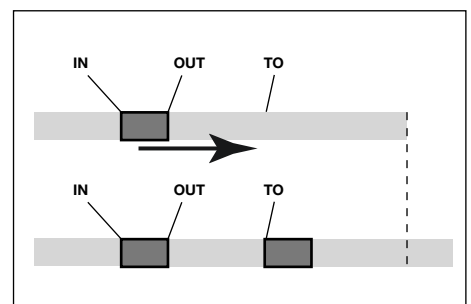


図2.5：コピー／インサート
(同一トラック内での編集の場合)

トラックを編集する

- 設定パラメータは以下の3つです。

Src.Trk

コピー元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

Dst.Trk

コピー先のトラックを選択します。Src.Trkで何を選択したかによって選択肢が変わります。

Src.Trkとしてシングルトラックを選択した場合はDst.Trkの選択肢は1～8（シングルトラック）、Src.Trkとしてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、Src.Trkとして1-8（全トラック）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

Times

コピーしたセクションを何回挿入するかを選択します。

1～99の中から選択できます。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

MOVE→PASTE

ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータを、ムーブ先トラックのTOポイント以降に移動します。

この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、ムーブ先トラックの長さは変化しません。

- 設定パラメータは以下の2つです。

Src.Trk

ムーブ元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

Dst.Trk

ムーブ先のトラックを選択します。Src.Trkで何を選択したかによって選択肢が変わります。

Src.Trkとしてシングルトラックを選択した場合はDst.Trkの選択肢は1～8（シングルトラック）、Src.Trkとしてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、Src.Trkとして1-8（全トラック）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

MOVE→INSERT

ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータを移動して、ムーブ先トラックのTOポイントに挿入します。

この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。

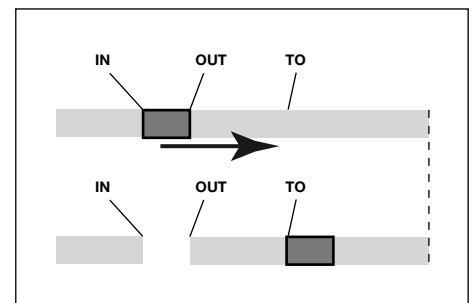


図2.6：ムーブ/ペースト
(同一トラック内での編集の場合)

この操作によって、ムーブ先トラックのTOポイント以降に移動データがインサートされます。したがって、ムーブ先トラックの長さが長くなります。

- 設定パラメータは以下の2つです。

Src.Trk

ムーブ元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

Dst.Trk

ムーブ先のトラックを選択します。Src.Trkで何を選択したかによって選択肢が変わります。

Src.Trkとしてシングルトラックを選択した場合はDst.Trkの選択肢は1～8（シングルトラック）、Src.Trkとしてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、Src.Trkとして1-8（全トラック）を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

OPEN（無音挿入）

選択したトラックのINポイントとOUTポイント間に無音部分を挿入します。

この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがってトラックの長さが長くなります。

- 設定パラメータは1つだけです。

Src.Trk

選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）、1-8（1～8トラック）およびALL（1～8+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

CUT（部分削除）

選択したトラックのINポイントとOUTポイント間をカット（削除）して詰めます。

この操作では、OUTポイント以降のパートが手前に移動します。したがって、トラックの長さが短くなります。

- 設定パラメータは1つだけです。

Src.Trk

選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）、1-8（1～8トラック）およびALL（1～8+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

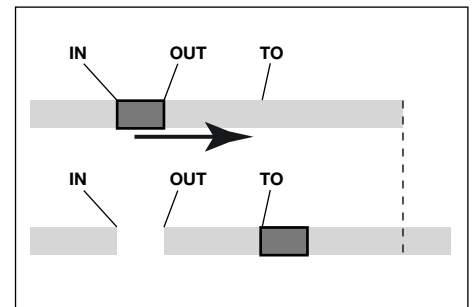


図2.7：ムーブ/インサート
(同一トラック内での編集の場合)

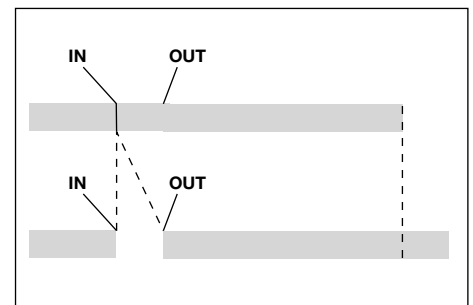


図2.8：無音部分を挿入（オープン）

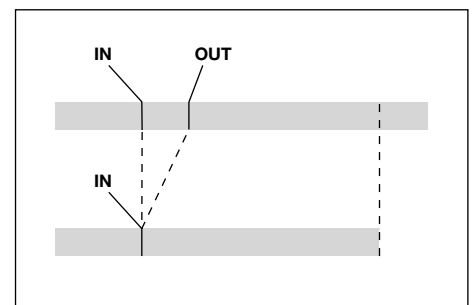


図2.9：カットして詰める（カット）

トラックを編集する

SILENCE (部分消去)

選択したトラックのINポイントとOUTポイント間を消去します。
INポイントとOUTポイント間に無信号を録音したときと同じです。
この操作では、トラックの長さは変わりません。
設定パラメータは1つだけです。

Src.Trk

選択肢は1～8 (シングルトラック)、1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) および1-8 (全トラック) です。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。
NO/EXITキーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

CLONE TRACK (トラックの複製)

シングルトラックまたはペアトラック全体を、別のトラックにコピーして、クローントラックを作成します。トラック全体のコピーですので、IN/OUTポイントは関係ありません。

- 設定パラメータは以下の2つです。

Src.Trk

コピー元トラックを選択します。選択肢は1～8 (シングルトラック)、1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) および**MASTER** (マスターステレオトラック) です。

Dst.Trk

コピー先トラック (クローントラック) を選択します。Src.Trkで何を選択したかによって選択肢が変わります。

Src.Trkとしてシングルトラックを選択した場合はDst.Trkの選択肢は1～8 (シングルトラック)、Src.Trkとしてペアトラック (たとえば1/2) または**MASTER**を選択した場合はDst.Trkの選択肢は1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) になります。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。
NO/EXITキーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

ヒント

STEREO MIX入力端子に接続したドラムマシンなどの信号をマスタートラックにミックスすることはできませんが、以下の方法によってドラムマシンをミックスすることができます。

- 1 **EFFECT SEND**と**EFFECT RETURN**を使ってリバーブをかけながら、ミックスマスタートラックにミックスダウンを行ないます。(→ 22ページ「ミックスダウンとマスタリング」)
- 2 **CLONE TRACK**機能を使って、ステレオミックス (**MASTER**) のクローンをペアトラック (たとえば1/2) 上に作ります。
- 3 ドラムマシンの出力を**STEREO MIX**端子ではなく**RETURN**端子に接続します。そしてドラムマシンがDP-01と同期して動作する設定になっていることを確認します。(→ 34ページ「MIDIと一緒に使う」)
- 4 クローンしたトラックと**RETURN**入力 (ドラムマシン) だけをソースとしてミックスダウンを行ないます。

以上の操作により、ドラムマシンとリバーブを加えたミックスダウンが可能になります。

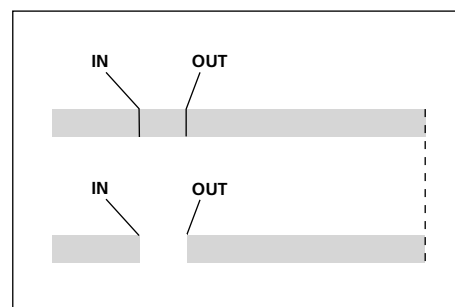


図2.10：無音部分を作る (サイレンス)

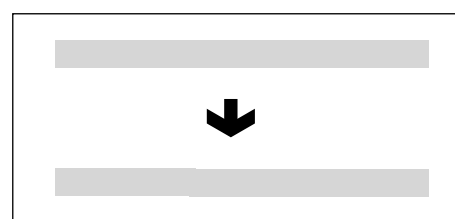


図2.11：トラックを複製する

メモ

Src. Trkと同じトラックをDst. Trkに設定すると、**YES/ENTER**キーを押したときにメッセージが表示され、操作を受付けません。

CLEAN OUT (トラック削除)

指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN / OUT ポイントは関係ありません。

- 設定パラメータは1つだけです。

Src.Trk

削除するトラックを選択します。選択肢は1～8 (シングルトラック) および 1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) です。

パラメータを設定後、**YES/ENTER** キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT** キーを押すと、実行しないで **TRACK EDIT** メニュー画面に戻ります。

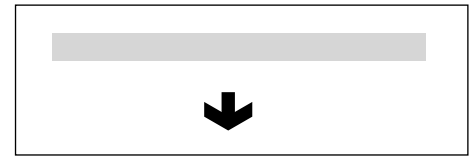
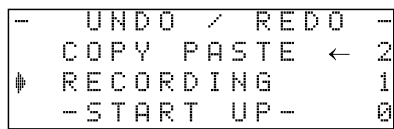


図2.12 : トラックを削除する

操作を取り消す (UNDO)

DP-01 の操作上のミスをしてしまったとき、多くの場合は操作を取り消すことができます。本章で説明している編集操作はすべて取り消しが可能です。そのほか録音操作など、多くの通常の操作は取り消しが可能です。

- 最後に行なった操作を取り消すには (シングルアンドゥ) :
UNDO キーを押します。
 最後の操作を行なう前の状態に戻ります。
- UNDO 操作を取り消すには (これを REDO と呼びます) :
SHIFT キーを押しながら **UNDO (REDO)** キーを押します。
- ある操作以降の操作を取り消すには (マルチアンドゥ) :
 1 **UNDO** キーを1秒以上押し続けて、**UNDO/REDO** 画面を表示させます。



画面にはイベント (操作) 番号"0" (START UP) から始まる操作のヒストリーが、操作順にリスト表示されます。いちばん上の行が最新の操作です。

このリスト内の指定イベント以降の操作を取り消すことができます。

- 2 **DATA** ダイアルを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します (選択したイベント以降の操作が取り消されることになります)。
- 3 **YES/ENTER** キーを押します。

DP-01 が、選択したイベント直後の状態に戻ります。

上記によって取り消された操作は情報が消えるわけではありません。DP-01 の状態がさかのぼっているだけです。リスト上では、UNDO によってさかのぼったイベントの脇に矢印が表示されます。

UNDO 操作を間違えたとき、UNDO を UNDO することができます (これを REDO と呼びます)。

- 1 **SHIFT** キーを押しながら **UNDO (REDO)** キーを押します。

直前の UNDO 操作が取り消されます。

あるいは UNDO によってさかのぼるイベントを変更したいときは、上記の **UNDO/REDO** 画面でイベントを指定し直します。

メモ

UNDO 操作をしていないと REDO はできません。

トラブルシューティング

トラブルシューティング

DP-01のような機器を使って作業していると、思いどおりに動作してくれなかったり、どうしていいかわからない場合が出てくるでしょう。そんなときはまず、このトラブルシューティングをご覧ください。「よくあるトラブル」とそれに対する「考えられる原因」が書かれています。

また53ページの「メッセージ」には、ディスプレイに表示されるメッセージの内容／意味が表にまとめてあります。行なった操作に対して、メッセージが表示されてDP-01が操作を受け付けられない場合、この表を参考にしてください。

再生しているのに音が出ない

- トラックフェーダーは適正なレベルまで上がっていますか？
- **MASTER** フェーダーは適正なレベルまで上がっていますか？
- **LINE OUTPUT** 端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？ またモニターシステムが正しく設定されていますか？
- トラックがミュートされていませんか？ (**MUTE** インジケーターが点灯していませんか？) ミュートされている場合、**SHIFT** キーを押しながら**REC** キーを押してください。
- ヘッドホンを使ってモニターしている場合、**PHONES** つまみが適正なレベルまで上がっていますか？

録音しようとするサウンドが歪んで聞こえる

- DP-01のフロントパネルの入力レベルつまみが上がりすぎていませんか？
- アコースティック楽器を録音する場合、エレキギター用のエフェクトをかけていませんか？ (DP-01FXおよびDP-01FX/CD)
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいませんか？

録音ができない

- **RECORD** キーを押しながら**PLAY** キーを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか一つのトラックが録音待機状態 (**REC** インジケーター点滅) になっていますか？
- 入力がトラックにアサインされていますか？ (→ 19ページ「入力をアサインする」)

パソコン上にDP-01のファイルが表示されない

- DP-01がUSB端子経由でパソコンに接続されていて、USBモードが「オープン」になっていますか？ (→ 40ページ「USBモードのオープンとクローズ」)
- USBモードを「オープン」する前に、FATパーティションにソング、トラックまたはミックスをバックアップまたはエクスポートしてありますか？ (パソコンからはソング用パーティション内のファイルを読むことはできません。)

選択したエフェクトがかからない (DP-01FXおよびDP-01FX/CD)

- **MULTI** または**REVERB** がオンになっていますか？
- **REVERB** の場合、(エフェクトをかけるトラックの) **EFFECT SEND** つまみと**EFFECT RETURN** つまみが上がっていますか？
- **MULTI** の場合、ボリュームが低すぎませんか？ またはパラメータ設定が低すぎませんか？ (→ 60ページ「マルチエフェクト」)

メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。DP-01では状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

Empty Export Track	「エクスポートトラックが空っぽです。」 何も録音されていないトラックをエクスポートしよう则表示されます。(→ 43ページ「トラックのインポートとエクスポート」) 別のトラックをエクスポートしてください。
File Not Found	「ファイルが見つかりません。」 FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストアしよう则表示されます。(→ 41ページ「ソングのバックアップとリストア」)
I-O Too Short	「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」 リピートモードに入ろうとするとときにINポイントとOUTポイントが近すぎると表示されます。 INポイントとOUTポイントをもっと離して下さい。
Import File Not Found	「インポートするファイルが見つかりません。」 WAVファイルのないFATパーティションからWAVファイルをインポートしようとしています。(→ 43ページ「トラックをインポートする」) DP-01をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機のFATパーティションに転送してください。
Import File Too Big	「インポートするファイルが大きすぎます。」 パーティションの空きスペースより容量の大きいWAVファイルをFATパーティションからインポートしようとしています。ファイルを削除してパーティションのスペースを拡げてから再度インポートを試みてください。
In Bounce Mode	「バウンスモード中です。」 バウンスモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Master Mode	「マスタリングモード中です。」 マスタリングモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Punch Mode	「パンチイン/アウトモード中です。」 パンチイン/アウトモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Repeat Mode	「リピートモード中です。」 リピートモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
Mark Full	「ロケーションマークをこれ以上登録できません。」 1つのソング内のロケーションマーク数は最大999までです。(→ 24ページ「ロケーションマーク」) 新しいロケーションマークを登録するには、不要なロケーションマークを削除してから行なってください。
Master Track Not Found	「マスタートラックが見つかりません。」 マスターミックストラックがソング内に録音されていないときにマスターミックストラックをエクスポートしよう则表示されます。(→ 45ページ「マスターミックスをエクスポートする」) ソングをマスタリングしてから、ミックスをエクスポートしてください。
Master Track Too Big	「マスタートラックが大きすぎます。」 FATパーティションの空き容量より大きなマスタートラックをエクスポートしようとしています。(→ 45ページ「マスターミックスをエクスポートする」) DP-01をパソコンに接続して、FATパーティションの空きスペースを拡げてください。
No Armed Track	「録音待機トラックがありません。」 トラックを録音待機にしないでオートパンチイン/アウトモードに入ろうとしています。(→ 28ページ「オートパンチイン/アウト」) 録音待機にしてから AUTO PUNCH キーを押してください。

トラブルシューティング

No Disk Space	<p>「ディスクスペースがありません。」</p> <p>パーティションに十分な空きスペースがないときにソングを作成しようとすると、このメッセージが表示されます。(→ 16ページ「新しいソングを作成する」)</p> <p>スペースを拡げてからソングを作成してください。</p>
No Locate Mark	<p>「ロケーションマークがありません。」</p> <p>ロケーションマークが登録されていないときにロケーションマークリストを編集しようとすると表示されます。(→ 24ページ「ロケーションマーク」)</p>
No Master Trk	<p>「マスタートラックが存在しません。」</p> <p>トラックのクローンを作るとき、存在しないマスタートラックをソースとして選択しようとすると表示されます。(→ 50ページ「CLONE TRACK (トラックの複製)」)</p> <p>マスタートラックを作るか、または別のソースを選択してください。</p>
No Redo Histry	<p>「Redoの履歴がありません。」</p> <p>Undoを行っていないため、Redoすべき操作が存在しません。(→ 51ページ「操作を取り消す (UNDO)」)</p>
No Song	<p>「ソングがありません。」</p> <p>ソングが存在しないパーティションからソングをロードしようとしています。(→ 17ページ「保存されているソングをロードする」)</p> <p>パーティションを変更してください。(→ 36ページ「アクティブパーティションを選択する」)</p>
No Undo Histry	<p>「Undoの履歴がありません。」</p> <p>Undoするような操作が存在しません。(→ 51ページ「操作を取り消す (UNDO)」)</p>
Not Stopped	<p>「レコーダーが停止していません。」</p> <p>レコーダーが停止していないとき、たとえばBOUNCEキーのように停止中でないと受け付けないキーを押すと、このメッセージが表示されます。</p>
Now Recording	<p>「レコーディング中です。」</p> <p>レコーディングを行なっているときにメニュー操作を行なおうとすると表示されます。他にもレコーディング中に受け付けない操作があります。</p>
Same Track	<p>「同じトラックを指定しています。」</p> <p>クローントラック設定で、「Src Trk」と「Dst Trk」とで同じトラックを指定すると表示されます。</p>
Song Protected	<p>「ソングがプロテクトされています。」</p> <p>プロテクトされているソングに変更（録音、編集など）を加えようとすると表示されます。(→ 39ページ「ソングをプロテクトする」)</p> <p>変更を加える前にプロテクトを解除してください。</p>
Too Many Songs	<p>「これ以上ソングを作成できません。」</p> <p>一つのパーティションが持つことができるソングの数は最大250です。不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。</p>
Track Full	<p>「トラックが録音済みです。」</p> <p>FATパーティションからすでに録音されているトラックにファイルをインポートしようとすると表示されます。(→ 43ページ「トラックをインポートする」)</p>
Trk Too Short	<p>「トラックが短すぎます。」</p> <p>ゼロポジションをOUTポイントに設定してマスタリングを行なおうとすると表示されます。(→ 22ページ「ミックスダウンとマスタリング」)</p> <p>OUTポイントを設定し直してください。(→ 25ページ「IN/OUTポイント」)</p>

仕様

アナログ入出力

INPUT (A、B)

標準ホンジャック (アンバランス) 入力

入カインピーダンス	10k Ω 以上 (INPUT B、およびINPUT Aの切換スイッチを"MIC/LINE"に設定時) 1M Ω (INPUT A、切換スイッチを"GUITAR"に設定時)
-----------	---

規定入力レベル -50dBV ~ -10dBV

最大入力レベル +6dBV

XLRコネクター入力 (バランス) (DP-01FXおよびDP-01FX/CD)

入カインピーダンス 2.4k Ω

規定入力レベル -48dBu ~ -8dBu

最大入力レベル +8dBu

RETURN (L、R)

コネクター 標準ホンジャック (アンバランス)

入カインピーダンス 10k Ω 以上

規定入力レベル -10dBV

最大入力レベル +6dBV

STEREO MIX (L、R)

コネクター 標準ホンジャック (アンバランス)

入カインピーダンス 10k Ω 以上

規定入力レベル -10dBV

最大入力レベル +6dBV

LINE OUTPUT (L、R)

コネクター RCAピンジャック

出カインピーダンス 1k Ω

規定出力レベル -10dBV

最大出力レベル +6dBV

SEND (L、R)

コネクター 標準ホンジャック (アンバランス)

出カインピーダンス 1k Ω

規定出力レベル -10dBV

最大出力レベル +6dBV

PHONES

コネクター 標準ホンジャック (ステレオ)

最大出力 30mW + 30mW (30 Ω)

デジタル出力

DIGITAL OUT

コネクター 角型オプティカル

データフォーマット S/PDIF1

オーディオ性能

周波数特性 20Hz ~ 20kHz +1dB/-3dB

S/N比 85dB以上 (A-weighted, 22kHz LPF)

THD (歪率) 0.05%以下 (1kHz, -10dBV, 22kHz LPF, MASTER フェーダー基準位置)

仕様

一般

電源	
ACアダプター入力	AC100-240V、50Hz - 60Hz
ACアダプター出力電圧	12V DC
ACアダプター出力電流	2.5A
消費電力	DP-01/DP-01FX: 15W、DP-01FX/CD: 25W
質量	DP-01/DP-01FX: 4.1kg、DP-01FX/CD: 5.2kg
外形寸法	DP-01/DP-01FX: 452 (幅) × 110 (高さ) × 307 (奥行き) DP-01FX/CD: 452 (幅) × 130 (高さ) × 307 (奥行き)

外形寸法図

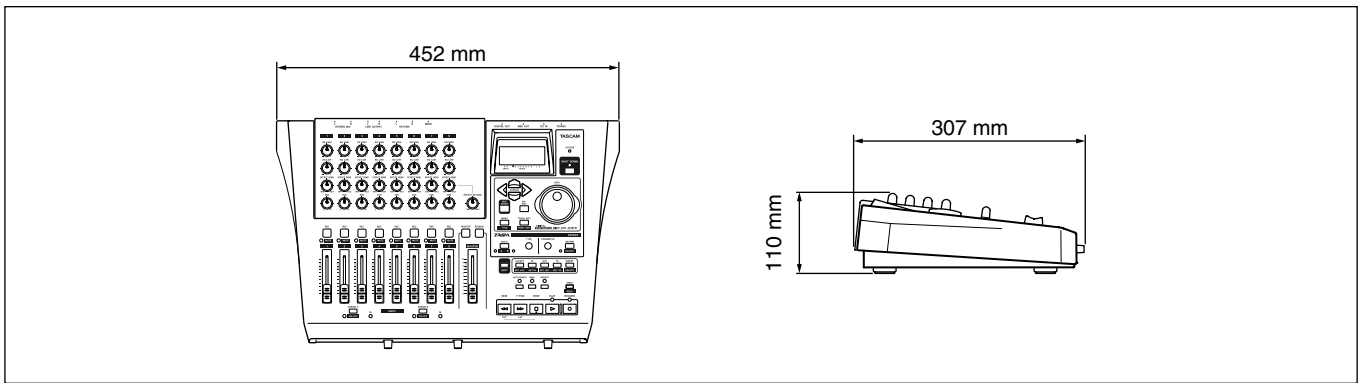


図2.13 : DP-01, DP-01FX外形寸法図

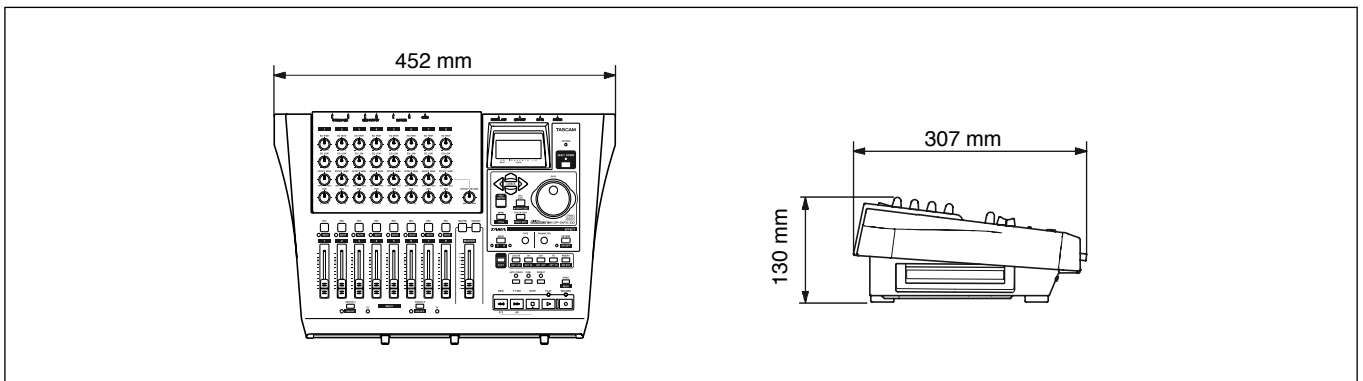
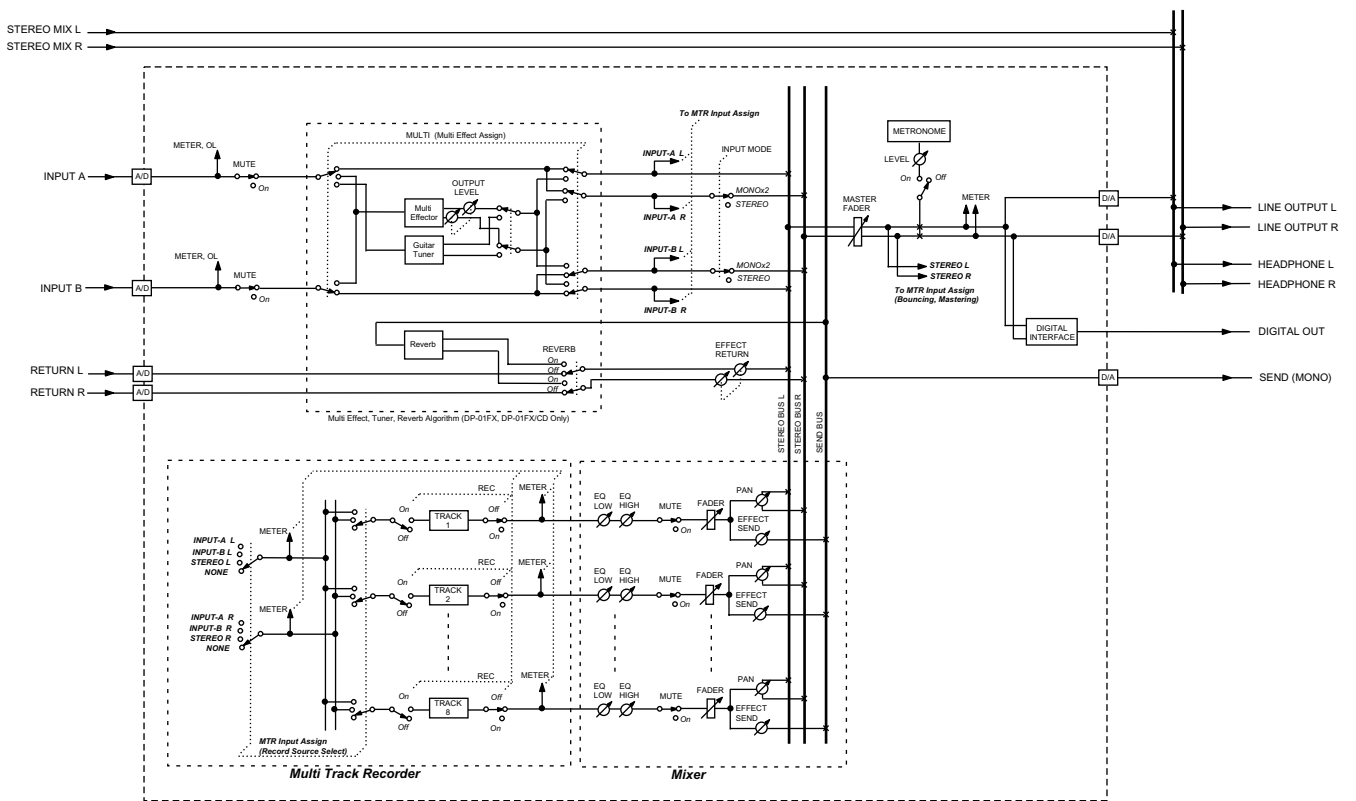
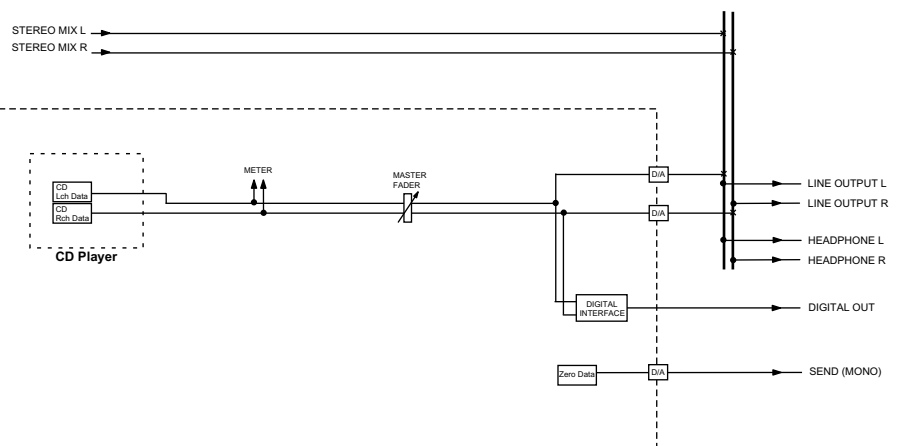


図2.14 : DP-01FX/CD外形寸法図

ブロックダイアグラム (DP-01)



ブロックダイアグラム (MTR モード)



ブロックダイアグラム (CDプレーヤーモード) [DP-01FX/CDのみ]

図2.14 : ブロックダイアグラム

DP-01FXはDP-01をベースに以下の機能を追加したモデルです。

- バランスXLR入力（ファントム電源内蔵）
- ギター／ベース用チューナー
- 入力用マルチエフェクト／ノイズリダクション
- ミックスダウン用リバーブ

バランスXLR入力

フロントパネルにマイク入力用のバランスXLRコネクタを装備しています。

+48Vのファントム電源を内蔵していますので、ファントムパワーを必要とするプロ用コンデンサーマイクの接続も可能です。

お手持ちのマイクが必要とするファントム電源についてはマイクの説明書をご覧ください。

PHANTOMスイッチ

フロントパネルのPHANTOMスイッチを使って、XLR入力への+48Vファントム電源供給のオン／オフを切り換えることができます。標準ホンジャックにはファントム電源が供給されません。

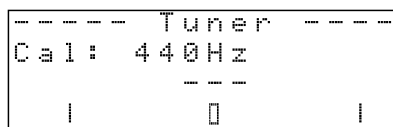
入力レベルつまみ

マイク信号はライン信号に比べてレベルが低いので、マイクを接続した場合は入力レベルつまみを右側に設定します。ただし音源の状態や使用するマイクによって適正レベルが異なりますので、トップパネルのOLインジケータが点灯しない程度のつまみ位置に設定してください。

ギター／ベース用チューナー

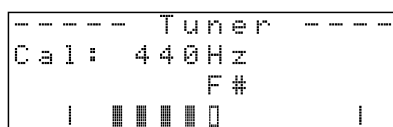
内蔵のギター／ベース用チューナーを使ってギターやベースをチューニングすることができます。

- 1 ギターまたはベースを入力Aに接続します。
- 2 MULTIキーを押しながらREVERBキーを押します。
チューナー画面が表示されます。



- 3 弦を弾いてチューニングを行ないます。

弾いた音に一番近いノートが表示され、そのノートより高すぎると右側のインジケータが点灯し、低すぎると左側のインジケータが点灯します。表示ノートとのズレが大きいほど、インジケータが多く点灯します。以下の画面例はF#よりかなり低い場合です。



メモ

XLRコネクタのピン配列は、#1=グラウンド、#2=ホット、#3=コールドです。

注意

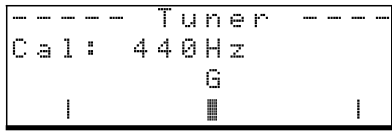
ファントム電源をオンにした状態で、XLRコネクタにマイクを接続したり、XLRコネクタからマイクを抜いたりしないでください。

XLRコネクタにアンバランスのダイナミックマイクを接続しているとき、ファントム電源をオンにしないでください。

メモ

入力Bに接続してもチューニングできません。

- 4 左右どちらにもインジケータが点灯しないように弦をチューニングします。



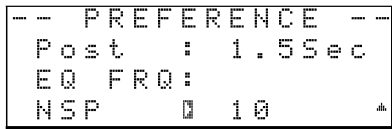
基準周波数を変えるには

チューナー画面表示中に**PARAMETER**つまみを使って、チューニングの基準周波数（A音の周波数）を変更することができます。

ノイズサプレッサー

レコーディング時、マイクのバックグラウンドノイズやギターアンプのノイズなどが気になる場合があります。DP-01FXにはノイズサプレッサーが内蔵され、入力信号があるレベル以下の場合に入力信号をカットすることができます。ノイズサプレッサーはマルチエフェクト動作中のみ有効です。

- 1 **MENU**キーを押し、**DATA**ダイヤルを使って**PREFERENCE**メニューを選択し、▶カーソルキーを押します。
- 2 ▲/▼カーソルキーを使って**NSP**項目を選択し、▶カーソルキーを押します。



- 3 **DATA**ダイヤルを使って、ノイズサプレッサーの動作レベルを設定します。選択肢は"1"～"60"および"OFF"です。数値が小さいほどノイズサプレッサーの動作レベルが下がります（より低いレベルの信号を通過させます）。"OFF"に設定すると、ノイズサプレッサーが動作しません。

ヒント

ノイズサプレッサーの動作レベルを高めに設定すると、静かな演奏パートで入力がカットされてしまう可能性があります。レコーディングを実行する前に、リハーサルで十分にチェックしながら動作レベルを設定してください。

マルチエフェクト

マルチエフェクト

DP-01FXには入力用マルチエフェクターが内蔵されています。エフェクトタイプ別にさまざまなエフェクト（エレキギター用、アコースティックギター用、ボーカル用など）が用意されていますので、入力する音源に合わせて選択することができます。

エフェクターをアサインする

マルチエフェクトは、2系統の入力のうちのいずれか1つに対して使用することができます。

マルチエフェクターの出力はステレオですので、出力を2つのトラックにアサインすることができます。（→ 19ページ「入力のアサインする」）

- 1 **SHIFT**キーを押しながら**MULTI**キーを押して、エフェクターを入力**A**または**B**にアサインします。

押すたびに、「**A**インジケータ点灯 → **B**インジケータ点灯 → 両インジケータ消灯」が切り換わります。

エフェクトタイプを選択する

接続している入力ソースに応じて、エフェクトタイプを選択します。

- 1 **MULTI**キーを単独で押します。

マルチエフェクトの選択／編集画面が表示されます。

```
— MULTI EFFECT —  
  < Tradist >  
  .. EGTR ..  
PAR: 83 VOL:100
```

- 2 **SHIFT**キーを押しながら**TYPE**つまみを回して、エフェクトタイプをスクロールします。

EGTR	エレキギター
AGTR	アコースティックギター
BASS	ベースギター
VOCAL	ボーカル
DRUM	ドラムス

エフェクトを選択する

TYPEつまみを単独で回すと、各エフェクト間をスクロールして選択できます。エフェクトの種類とそれぞれの機能については、次ページの「エフェクト一覧表」をご参照ください。

パラメータを設定する

各エフェクトごとに1つパラメータを設定できます。

パラメータの内容はエフェクトによって異なります。設定は**PARAMETER**つまみを使って行ないます。

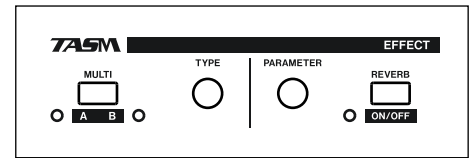


図3.1：エフェクトセクション

メモ

エフェクトタイプのスクロールにともなって、エフェクト表示（ディスプレイの3行目）やパラメータ値（ディスプレイの最下行）も変化します。

ヒント

TYPEつまみを回すことにより全エフェクト間をスクロールすることができますが、最初にエフェクトタイプを選択してから**TYPE**つまみを右に回すことにより、目的のエフェクトを効率的に見つけることができます。

エフェクトボリュームを設定する

SHIFTキーを押しながらPARAMETERつまみを回すことにより、エフェクトのボリューム（0～127）を設定することができます。

マルチエフェクターのエフェクト一覧表

以下は、マルチエフェクターのエフェクトをエフェクトタイプ別に表にまとめたものです。

エレキギター用設定 (EGTR)

TraDist	オーソドックスなディストーションと、ショートディレイによるダブリングを組み合わせたサウンドです。
Tube OD	チューブアンプのオーバードライブサウンドにビブラートをかけ、アーミングしながら演奏した感じです。
BlueDrv	オートワウを使用したサウンドです。ピッキングで音を短く切って弾くのがポイントです。
BlueSlid	軽くオーバードライブさせた音に、左右に振れるトレモロをかけたブルージーな音です。
R.Bottom	80年代のヘビーメタル向けのサウンドです。
ClsRock1	70年代のプリティッシュスタックのサウンドです。
ClsRock2	深めのドライブにディチューンコーラスを加えて、音に厚みのあるサウンドです。
MelSus	サスティーンが長めのサウンドです。ハムバッキングのフロントPUで弾くと甘いドライブサウンドが得られます。
SmthDist	粒の揃ったオーバードライブサウンドにエコーを組み合わせた、ソロ向けのサウンドです。
SpeeKing	シングルコイルPU向けのオーバードライブサウンドです。
Heavy1	プリティッシュスタックアンプにディストーションをプラスしたようなヘビーメタル向きなサウンドです。
Heavy2	ファジーなディストーションとジェットフランジャーの過激なサウンドです。
Heavy3	ディストーションとコーラスを組み合わせた太いサウンドです。
Metal	メタルディストーションのツインリードサウンドです。
80sRock1	エッジの効いたメタルサウンドです。
80sRock2	高域を抑えたディストーションサウンドに、深めのエコーを加えました。
90sRock	ブライتناディストーションにリバーブをかけた、ソロ向けのサウンドです。
FstChor	シングルコイル系のPUで、アルペジオやコード演奏に適しています。アコースティックギター的なサウンドを得たいときにも使えます。
CompChr1	高域を強調したサウンドに、プリディレイを長めに設定したコーラスで空間を演出しました。シングルコイルPU向きです。
CompChr2	爽やかな感じのバッキングサウンドです。
Rhythm1	エッジの効いたバッキングサウンドです。
Rhythm2	ジャジーな音楽にも向く、甘めのバッキングサウンドです。
Rhythm3	硬めの音質のバッキングサウンドです。
Funk	フェイザー効果を付加したファンキーな雰囲気を作ります。フュージョン系のバッキングにも最適です。
Groove	フランジャー効果を付加し、うねりのあるバッキングサウンドです。アルペジオ演奏にも合います。
Country	アタックが強めのコンプに、ショートエコーをかけたサウンドです。
Crying	ギターボリュームの位置によって、甘いトーンからエッジの効いたトーンまで、弾き手の感性を表現できるサウンドです。
Weeping	暖かみのあるオーバードライブサウンドです。
Fusion1	ロングサスティーンで甘いオーバードライブサウンドです。
Fusion2	ブライتناディストーションに、ロングディレイを使用したサウンドです。
ClnSolo	ロングサスティーンの、ソロ向けのサウンドです。
PwrDist1	エコーをかけたプリティッシュスタックアンプサウンドです。
PwrDist2	アメリカンハードロック向けのディストーションにコーラスを加え、音に厚みを与えたサウンドです。
PwrDist3	荒削りなメタルディストーションサウンドです。
PwrDist4	エッジの効いたダブリングディストーションサウンドです。
Texas1	ブラックパネルアンプで鳴らしたようなサウンドです。

マルチエフェクト

Texas2	芯のくっきりした、ハリのあるオーバードライブサウンドです。
Texas3	渋く決まるオーバードライブサウンドです。
Texas4	コーラスにより、広がりのあるオーバードライブサウンドです。
Swingy	中域にピークのある、暖かみのあるサウンドです。
FatJazz1	抜けのあるジャズギター向きのサウンドです。
FatJazz2	コンプのかかった太めのサウンドです。
R&B	ざらついた歪みのかかった、高域の強調されたサウンドです。
ClnVerb	クリーンなロングサスティーンサウンドです。
CtyBlues	太い音質のオーバードライブサウンドです。
Ltl Wng	ブライتناプリティッシュスタックアンプでのクランチサウンドです。
CoolPick	クランチサウンドに軽くフェイザーをかけた、立体感のあるサウンドです。
Fuzzy	ドライブの深いファジーなサウンドです。
Hazy	シングルコイルPUにピッタリのファズサウンドです。
BritCln	伝統的なプリティッシュコンボアンプをシミュレートしたクリーンサウンドです。
PowChord	バックギングに適したディストーションサウンドです。
BmLead	ピッチシフトで、7度上のサウンドをミックスしたソロ向きのディストーションです。
FlngGtr	トレブリーオーバードライブサウンドとジェットフランジャーの組み合わせです。
Oct.Dist	1オクターブ下のサウンドをミックスした重低音ディストーションです。
PhaseRev	フュージョン系のハーフトーンのバックギングに適したサウンドです。
Ensemble	ディチューンとフェイザーを加えた立体的なコーラスです。シングルコイルPU向きです。
Surf	サーフィンサウンドにぴったりのサウンドです。
Violin	バイオリン奏法をした時のようなサウンドです。ハムバックPUのような高出力PU向きです。
BlkPanel	有名なアメリカンコンボチューブアンプのトレモロとスプリングリバーブをシミュレートしたサウンドです。
UK Stack	おそらく最も有名なプリティッシュスタックアンプをシミュレートしたサウンドです。
Jimi Box	きめの粗いダーティーなディストーションです。
Mboogie	有名なアメリカンコンボアンプをシミュレートしたサウンドです。
HeartBrk	チューブのスタックアンプのローゲインサウンドです。
GentWeep	コーラスディストーションのうねりのあるサウンドで、むせび泣くようなソロに最適です。
Bfinger	ディチューンコーラスで厚みを加えたディストーションです、指弾きに最適です。
Tweed	シングルコイルPUのフロントPUで、ブルースを弾くのに最適なサウンドです。
RSCrunch	ウォームなクランチサウンドです。シングルコイルPU向き。
NightDrv	70年代のプリティッシュ・ハードロックのサウンドです。シングルコイルPU向きです。
Ult.Funk	強めのフェイザーで、ファンキーなカッティング向きのサウンドです。
Axe Bom	倍音の多いヘビーメタル向きのサウンドです。
Doctor	ペダルワウを途中で止めたようなサウンドです。
Sold No	最近のハイクオリティーチューブアンプをシミュレートしたサウンドです。
Run Away	ピッキングで音を短く切って弾くのがポイントです。
Remains	有名ミュージシャンのダブルネック12弦のサウンドです。
Nostalgi	プリティッシュチューブアンプをベースにしたオーバードライブサウンドです。
RealDst1	ディストーションのみのサウンドです。大型のスタックアンプを意識しました。
RealDst2	ディストーションのみのサウンドです。アメリカ製の有名コンボタイプの雰囲気です。
RealDst3	パワーチューブディストーションサウンドです。
RealDst4	有名な日本製アンプのサウンドにエコーを付加したようなサウンドです。

アコースティックギター用設定 (AGTR)

Heaven	抜けの良い音質に、高域の伸びたリバーブを付加したサウンドです。
Stroke	ディチューンコーラスによるコーラス効果とエコーにより、広がりのあるバックギングサウンドが得られます。
Solo	アコースティックギターのソロ演奏に適したサウンドです。

Blues	アコースティックギターで、スライド奏法をするのに適したサウンドです。
Arpeggio	ピッキングの粒を揃えたアルペジオ奏法に適したサウンドです。
12String	エキサイターで高域を強調したサウンドにコーラス効果を付加し、12弦ギターのような効果が得られます。
Crystal	高域の強調されたサウンドです。ギターの音の抜けが悪いときに適した効果です。
Nashvill	太めのアコースティックサウンドです。ソロにも適しています。
Mellow	高域を抑えたメロウなサウンドです。スチール弦のギターからナイロン弦のようなサウンドを作り出します。
Chor Vib	ビブラートとコーラスで広がりのある厚いサウンドです。バッキングにも適しています。
TremSolo	ステレオパンニングのサウンドです。

ベース用設定 (BASS)

このプリセットサウンドはベース入力を想定しています。他の音源には適正な効果が得られないことがあります。

Miller	チョッパー奏法に適したサウンドに、ベースフランジャーを付加しました。
Singing	軽く歪みのかかった音にコーラスを付加してあります。プログレなどに最適です。
Fretless	フレットレスベースのようなサウンドを作り出します。
Chopper	スラップ奏法に適したサウンドです。
Heavy	過激なベースディストーションサウンドです。
Peculiar	暖かみのあるベースサウンドです。
RockBass	ピック弾きに適したベースディストーションです。高域が強調された音質で、ベースソロ向きです。

ボーカル用設定 (VOCAL)

De-Esser	サ行などの、耳障りな子音成分のバランスを下げる事ができます。
Chorist	ディチューンによりボーカルに複音感を与えます。
Emphasis	埋もれがちなボーカルを際立たせることができます。
Shout	ボーカル用のディストーションサウンドです。
Moody	しっとりしたボーカルに最適なサウンドです。
Response	ボーカル用エコーサウンドです。
Proclaim	エコーのかかった特殊効果にも使えるサウンドです。
Quiverin	ビブラートのかかったボーカルを演出するサウンドです。
Duet	女性デュエット、男性デュエット、ハーモニーなどを演出します。
Lo-Fi	ローファイボーカルを演出します。
Megaphon	メガホーンを通したようなボーカルサウンドです。
Screamin	ボーカル用のフランジャーサウンドです。
Panning	左右に振れるボーカルサウンドを演出します。

ドラムス用設定 (DRUM)

ドラムマシーンなどに最適です。

Groove	フランジャー効果でリズムなどにグルーブを与えるサウンドです。
Stepping	フィードバックの少ないディレイです。
TrnAroun	音ネタを前に出したり引っ込めたりする効果が得られるサウンドです。
GetSpace	ドラム用のリバーブです。
CsBottom	低域の強調されたサウンドが得られます。
Trem.PAD	左右に揺れるパンニング効果です。
PerfrmEQ	ドラムの音色に癖を付けて、パフォーマンスサウンドを演出します。
Lo-Fi	ローファイリズムサウンドです。
Reverb	リバーブのみを使用する場合のプリセット
Comp.	コンプレッサーのみを使用する場合のプリセットです。
Vibrato	ビブラートのみを使用する場合のプリセット
Filter	ローパスフィルターを使用する場合のプリセットです。

リバーブ

リバーブ

SEND端子とRETURN端子を使って外部のエフェクターを接続する代わりに、DP-01FXでは内蔵のリバーブを使うことができます。(→ 12ページ「DP-01を外部機器と接続する」)

内蔵リバーブと外部エフェクターを同時に使うことはできません。

リバーブのオン/オフを切り換える

SHIFTキーを押しながらREVERBキーを押すことにより、リバーブのオン/オフを切り換えることができます。オンのときREVERBインジケーターが点灯します。

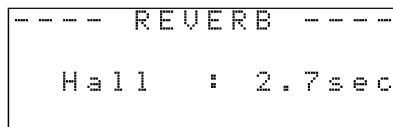
リバーブを使う

リバーブがオンのとき、ミキサーのEFFECT SENDつまみとEFFECT RETURNつまみがそれぞれ、内蔵リバーブへのチャンネルセンドレベル、内蔵リバーブからステレオミックスへのリターンレベルをコントロールします。

リバーブがオフのとき、ミキサーのEFFECT SENDつまみとEFFECT RETURNつまみがそれぞれ、SEND出力端子に送られるチャンネル出力レベル、RETURN入力端子からの入力レベルをコントロールします。

リバーブタイプを選択する

1 REVERBキーを押してリバーブ画面を表示させます。



2 TYPEつまみを使って、Hall、Room、Live、Studioの中からタイプを選択します。

それぞれ、異なった特性を持っています。

リバーブタイムを設定する

リバーブ画面表示中、PARAMETERつまみを使って残響時間を設定します。

0.1秒～5.0秒の範囲(0.1秒ステップ)で設定できます。

ヒント

リバーブ(Reverb)はリバーブレーション(Reverberation)を短くした呼び方です。残響音という意味で、部屋の壁からの短いエコーからなるサウンドです。

CD-R/CD-RWディスクに関して

DP-01FX/CDにはCD-RWドライブが内蔵されています。ドライブを使用する前に、以下のご注意をお読みください。

CD-RディスクとCD-RWディスクについて

DP-01FX/CDではCD-R/CD-RWメディアを使います。またCD-R/CD-RWデジタルオーディオメディアを使うこともできます。

本取扱説明書では、「CD-Rディスク」、「CD-RWディスク」と表記した場合、(特に断りがないかぎり)それぞれ「CD-Rデジタルオーディオディスク」、「CD-RWデジタルオーディオディスク」を含みます。

CD-Rディスクには一回しか記録することができません。一度レコーディングに使用したディスクは消去できず、記録内容を変更することもできません。ただし、ディスク上の空きスペースに別の素材を記録することは可能です。CD-Rディスクのパッケージには以下のロゴのいずれかが表示されています。



これに対して、CD-RWディスクは記録したデータを消去したり、新たなデータを記録することができます。

CD-RWディスクのパッケージには以下のロゴのいずれかが表示されています。



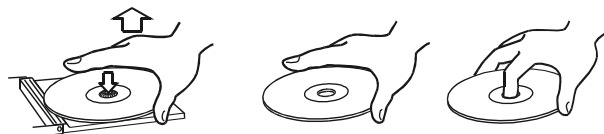
ただし、CD-RWディスクを使って作成したオーディオCDは、通常のオーディオCDプレーヤーで再生できない場合があります(もちろんDP-01FX/CDでは再生できます)。これはメディアの違い、および読み出し方式の違いによるもので、DP-01FX/CD自体の問題ではありません。

CD-Rディスクを使って作成したオーディオCDは、ほとんどのオーディオCDプレーヤーで再生することができます。

CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについて

- ディスクは必ずレーベル面を上にしてセットしてください。(コンパクトディスクの再生は片面だけです。)

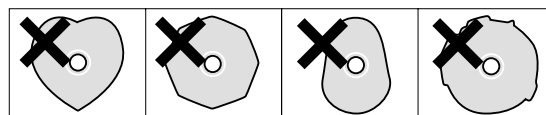
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。



- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは音質低下の原因になりますので、いつもきれいに掃除して保管してください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生できなくなる場合があります。
- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形などの特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクメーカーにお問合せください。
- 市販のCDスタビライザーを使用しないでください。また、プリンタブルディスクを使用しないでください。本機のメカニズムに損傷を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- スタビライザーをマウントしたディスクを使用しないでください。はみ出した接着剤によって、ディスクがDP-01FX/CDのメカニズムに貼り付く可能性があります。

メディア対応表

メディア対応表

	オーディオCD再生	オーディオCD書き込み データバックアップ データエクスポート	データリストア データインポート
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機で作成	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット 市販CD	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機以外で作成	△	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機で作成 未ファイナライズ	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機以外で作成 未ファイナライズ	×	—	—
8cmCDDA規格フォーマット 市販CD	△	—	—
CDDA規格外フォーマット 市販CD(プロテクトCD, DATA CD,CD extra 等)	△	—	—
CDDA規格外フォーマット CD-R/CD-RW (DATA CD,CD extra 等)	△	—	—
12cm “Ultra Speed” CD-RWメディア	×	×	×
12cm CD-R/CD-RW ~HIGH Speed	—	○	—
8cm CD-R/CD-RW	—	△	—
記録済みCD-R/CD-RW (CD-RWはERASEで使用可)	—	×	—
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機でBackup	—	—	○
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機以外で作成	—	—	○
12cm ISO 9660 Level1 以外 CD-R/CD-RW	—	—	×
8cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW	—	—	△
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機用データ以外を追記	—	—	△

○：対応 △：動作保証外 ×：非対応

DP-01FX/CDは、DP-01FXにCD-R/RWのドライブを搭載した製品です。
このセクションでは、CD-R/RWの機能について説明します。

メモ

以下のメニューの説明で、メニューの選択は、ENTERキーまたは▶カーソルキーを使って行います。

CDのOPEN/CLOSE

- ハードディスクおよびCDが停止状態のとき、CDのOPEN/CLOSEができません。
- 1 SHIFTキーを押しながら、EXITキーを押します。
 - 2 以下の画面が表示され、CDトレイが開きます。

```

|          CD TRAY          |
|          OPEN             |
|          |                |

```

オーディオCDメニュー

オーディオCDを再生する

- 1 CDトレイにオーディオCDを入れます。
- 2 MENUキーを押して、AUDIO CDメニューを表示します。

```

----- MENU -----
WAVE          :
MIDI          :
AUDIO CD     >

```

- 3 AUDIO CDメニューからCD PLAYERを選択します。

```

--- AUDIO CD ---
CD PLAYER     >
MASTER WRITE :
FINALIZE     :

```

- 4 以下の画面がCD PLAYERメニューです。

現在再生中のトラック番号を表示します。

現在再生中のトラック番号の、先頭からの経過時間を表示します。

DATAダイヤルまたは▲/▼キーにより上下に移動できます。CDプレーヤ停止中に、PLAYキーまたはENTERキーを押すと、矢印で選択しているトラックが再生されます。

CDに記録されているオーディオ（プリフェーダー）のレベルメーターです。ステレオアウトの出力レベルは、MASTERフェーダーで調整できます。

トラック番号とトラック時間を表示します。DATAダイヤルまたは▲/▼キーにより、オーディオCDのトラックリストを見ることができます。

```

CD 01 00m00s
-----
->02: 5m10s  [|||||]
03: 4m15s  [|||||]

```


オーディオCDメニュー

5 CD PLAYERメニュー表示中は、以下のキーを使うことにより、CD PLAYERのコントロールを行うことができます。

- ・ STOPキー： CD PLAYERを停止
- ・ PLAYキー： 選択されたトラックを再生
- ・ F FWDキー： 早送り方向のトラックを選択
- ・ REWキー： 早戻し方向のトラックを選択
- ・ DATAダイアル
トラックリストから再生するトラックを選択
- ・ ENTERキー 選択されたトラックを再生
- ・ STOP+REWキー CDの先頭にスキップし停止
(STOPキーを押しながら、REWキーを押す)

オーディオCDを作成する

DP-01FX/CDでは、各ソングごとに作成したマスターステレオトラック(→23ページ「マスタリング」)をCD-RまたはCD-RWに書き込み、一般のCDプレーヤーで再生可能なオーディオCDを作成することができます。

CDを作成する方法としては、

Disk At Once(以下DAO)とTrack At Once(以下TAO)、の2つの方法があります。

DAOは、DP-01FX/CDに記録された複数のマスターステレオトラックを、一度に書き込む方法です。

一般のCDプレーヤーで再生するためのファイナライズ(→71ページ「ファイナライズする」)まで実行するため、DAOでの書き込み終了後すぐに他のCDプレーヤーでの再生が可能となります。

DAOでは自動でファイナライズまで実行してしまうため、DAO終了後CDへの追記はできません。

TAOは、DP-01FX/CDに記録された複数のマスターステレオトラックを、1トラックずつCDに書き込む方法です。

何回かに分けてCDへの書き込みを行いたい場合はTAOで行います。

TAOでは、自動でのCDのファイナライズは行わないため、作成したCDは一般のCDプレーヤーでは再生できません。(DP-01FX/CDでの再生は可能です)

書き込みたいマスターステレオトラックをすべてTAOで書き込んだ後、ファイナライズ(→71ページ「ファイナライズする」)を行ってください。

ファイナライズ終了後CDへの追記はできません。

Disk At Onceで書き込む

Disk At Onceでは、複数トラックを書き込む場合、自由にトラックの順番を設定できます。

また、曲間に指定の長さの無音部分を追加することができます。

- 1 CDトレイに未書き込みのCD-Rまたは消去済みのCD-RWを入れます。
- 2 MENUキーを押して、AUDIO CDメニューを表示します。

```
----- MENU -----  
WAVE                :  
MIDI                :  
AUDIO CD           >
```


3 AUDIO CDメニューからMASTER WRITEを選択します。

```

--- AUDIO CD ---
CD PLAYER      :
MASTER WRITE   >
FINALIZE       :
    
```

4 マスタートラックを含んでいるソングの一覧が表示されますので、▲/▼キーを使って矢印を移動してCDに書き込みたいソングを選択し、INSERTキーを押します。

選択したソング名の横に“√”が表示され選択状態となります。

```

- MASTER WRITE -
>√ SONG001      1:10
  √ DPO1DEMO    3:15
(TOTAL 4:25)
    
```

5 書き込むソングが決まったら、ENTERキーを押します。

この画面では、CDに書き込むマスターステレオトラックの順番を設定することができます。

順番を変えたい曲を▲/▼キーで選択し、ENTERキーを押します

ソング名横の矢印が上下矢印表示に変わりますので、この状態でDATAダイヤルを使ってソング位置を移動します。

曲順を変更したら、EXITキーを押します。

上下矢印表示が右矢印表示に戻ります。

(順番を変えたいソングが複数ある場合は、この操作を繰り返してください。)

```

-- SONG ORDER --
> DPO1DEMO      1:10
  SONG001        3:15
(TOTAL 4:25)
    
```

6 SONG ORDER画面で▶カーソルキーを押すと、曲間のGAP長設定画面が表示されます。

▲/▼キーで矢印を移動して選択し、そのソングの後に作られるGAP長をDATAダイヤルで設定します。

GAP長は0.0秒から9.9秒まで0.1秒単位で設定が可能です。

GAP長の設定が終了し、CDへの書き込みを行う場合は、ENTERキーを押します。

```

--- SONG GAP ---
DPO1DEMO >0.0s
SONG001  0.0s
(TOTAL 4:25)
    
```

メモ

ソングの選択を解除するには、SHIFTキーを押しながら、INSERTキーを押します。

メモ

SONG ORDER画面に戻りたい場合は、◀カーソルキーを押します。

オーディオCDメニュー

7 以下の書き込み確認メッセージが表示されます。

```
| Burn to CD |  
| Are you sure ? |
```

もう一度**ENTER**キーを押すと、CDへの書き込みが開始されます。

8 CDへの書き込み後、同じ内容をさらに別のCDに書き込むかどうかの確認画面が表示されます。

```
| Another CD ? |  
| Insert Blank CD |
```

別のCDに書き込む場合は、**ENTER**キーを押します。

別のCDに書き込まない場合は、**EXIT**キーを押します。

Track At Onceで書き込む

Track At Onceでは、1トラック毎の書き込みを終えると、最後に2秒間の無音を記録します。

- 1 **MENU**キーを押して、**AUDIO CD**メニューを表示します。
- 2 **AUDIO CD**メニューから**MASTER WRITE**を選択します。
- 3 マスタートラックを含んでいるソングの一覧が表示されますので、**▲/▼**キーを使って矢印を移動してCDに書き込みたいソングを1つ選択して、**ENTER**キーを押します。
- 4 書き込み後にファイナライズするかどうかのメニュー画面が表示されます。ファイナライズする場合にはDATAダイアルでONを、ファイナライズしない場合はDATAダイアルでOFFを選択し、もう一度**ENTER**キーを押します。

```
-SONG001 WRITE-  
FINALIZE : OFF
```

5 以下の書き込み確認メッセージ表示されます。

```
| Burn to CD |  
| Are you sure ? |
```

もう一度**ENTER**キーを押すと、CDへの書き込みが開始されます。

ファイナライズする

TAOでこれ以上CDへの書き込みを行わなければ、一般のCDプレーヤーで再生できるようファイナライズを行います

- 1 MENUキーを押して、AUDIO CDメニューを表示します。
- 2 AUDIO CDメニューからFINALIZEを選択します。

```

--- AUDIO CD ---
CD PLAYER      :
MASTER WRITE  :
FINALIZE       >

```

- 3 ENTERキーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```

| Finalize CD |
| Are you sure ? |

```

もう一度ENTERキーを押すと、ファイナライズが開始されます。

オーディオCDを消去する

書き込み済みCD-RWの消去を行います。

- 1 MENUキーを押して、AUDIO CDメニューを表示します。
- 2 AUDIO CDメニューからCD-RW ERASEを選択します。

```

--- AUDIO CD ---
MASTER WRITE  :
FINALIZE       :
CD-RW ERASE   >

```

- 3 ENTERキーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```

| CD ERASE |
| Are you sure ? |

```

もう一度ENTERキーを押すと、CD-RWの消去が開始されます。

メモ

書き込み済みCD-Rを消去することはできません。

データCDメニュー

データCDメニュー

CDからインポートする

データCD上に記録されているWAVフォーマットのファイルを読み込み、現在ロードされているソングのトラックへインポートします。

- 1 CDトレイにWAVフォーマットのファイルが記録されているCDを入れます。
- 2 MENUキーを押して、DATA CDメニューを表示します。

```
----- MENU -----  
MIDI                :  
AUDIO CD           :  
DATA CD            >
```

- 3 DATA CDメニューからCD IMPORTを選択します。

```
----- DATA CD -----  
CD IMPORT          >  
CD EXPORT         :  
CD BACKUP         :
```

- 4 CD上に記録されているWAVフォーマットのファイル名が表示されます。

```
--- CD IMPORT ---  
> BIGDRUMS.WAV  
  BELL .WAV  
  MELEAHHS.WAV
```

- 5 DATAダイアルを使って、インポートするWAVファイルを選択し、ENTERキーを押します。
- 6 DATAダイアルを使って、WAVファイルのインポート先トラックを選択し、ENTERキーを押します。

```
--- CD IMPORT ---  
  to > Track2  
Free :    4023MB  
Wav  :     75MB
```

CDからのインポート終了後、Menu画面に戻ります。

注意

インポート、エクスポートで扱えるWAVフォーマットは、16ビット、44.1kHzのモノラルのファイルのみです。(このフォーマット以外のファイルは、ファイル名表示もされません。)

CDにエクスポートする

現在ロードされているソングのトラックデータを、WAVフォーマットのファイルに変換しCDに書き込みます。

- 1 CDトレイに未書き込みのCD-Rまたは消去済みのCD-RWを入れます。
- 2 MENUキーを押して、DATA CDメニューを表示します。

```

----- MENU -----
MIDI                :
AUDIO CD            :
DATA CD             >
  
```

- 3 DATA CDメニューからCD EXPORTを選択します。

```

----- DATA CD -----
CD IMPORT           :
CD EXPORT           >
CD BACKUP           :
  
```

- 4 オーディオが記録されているトラックのファイルリストが表示されますので、DATAダイアルまたは▲/▼キーを使ってエクスポートしたいトラックを選択し、INSERTキーを押します。

選択したソング名の横に“√”が表示され選択状態となります。

トラックの選択を外したいときは、DATAダイアルまたは▲/▼キーを使ってトラックを選択し、SHIFTキーを押しながらINSERT(DELETE)キーを押します。

トラック名を編集するには：

SHIFTキーを押しながらMENU (TITLE)キーを押すと、以下のような画面が表示され、カーソル位置のトラックの名前を編集することができます。

```

| FILE NAME |
| [TRACK001] |
  
```

名前を編集し、最後にYES/ENTERキーを押します。(→ 11ページ「名前を付ける」)

- 5 エクスポートするソングトラックの選択が終わったら、ENTERキーを押します。
- 6 DATA CDの空き容量とエクスポートするトラックの総容量が表示されます。

```

--- CD EXPORT ---
Free : 702 MB
Wav  : 402 MB
[ENTER] -> Exe
  
```

- 7 ENTERキーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```

| CD EXPORT |
| Are you sure ? |
  
```

もう一度ENTERキーを押すと、DATA CDへのエクスポートが開始されます。

データCDメニュー

- 8 CDへのエクスポート後、同じ内容をさらに別のCDにエクスポートかどうかの確認画面が表示されます。

```
| | Another CD ? | |
| | Insert Blank CD | |
```

別のCDにエクスポートする場合は、**ENTER**キーを押します。

別のCDにエクスポートしない場合は、**EXIT**キーを押します。

CDにソングをバックアップする

ソングをデータCDにバックアップ(書き込み)します。

- 1 CDトレイに未書き込みのCD-Rまたは消去済みのCD-RWを入れます。
- 2 **MENU**キーを押して、**DATA CD**メニューを表示します。
- 3 **DATA CD**メニューから**CD BACKUP**を選択します。

```
----- DATA CD -----
CD IMPORT          :
CD EXPORT          :
CD BACKUP         >
```

- 4 現在選択されているパーティションに含まれているソングリストが表示されます。

```
-- SONG BACKUP--
> SONG001        2M
  SONG002        10M
  DEMOSONG1      80M
```

- 5 **DATA**ダイヤルを使って、バックアップするソングを選択し、**ENTER**キーを押します。
- 6 データCDに書き込むファイル名の登録画面が表示されます。
- 7 ◀/▶カーソルキーや**DATA**ダイヤルを使って、ソングの名前(最大8文字)を付けます。(→11ページ「名前を付ける」)

```
----- BACKUP -----
File [SONG000U]
[ENTER] -> Exe
```

- 8 **ENTER**キーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```
| | Song Backup | |
| | Are you sure ? | |
```

もう一度**ENTER**キーを押すと、ソングを保存後、バックアップに必要なCDの枚数が表示されます。

```
| | Required CD 2 | |
| | Are you sure ? | |
```

表示された枚数のCDを準備したら、**ENTER**キーを押します。

CDへのBackupが開始されます。

- 9 1枚目のCDが終了後、2枚目のCDの要求メッセージが表示されますので空白CDをセットしてください。

```
| #2/2 CD |
| Insert BlankCD |
```

空白CDの代わりに書き込み済みCD-RWをセットすると、以下のメッセージが表示されます。

```
| Erase a CD-RW ? |
| Are you sure ? |
```

ENTERキーを押すと、CD-RWを消去後バックアップが続行されます。
もし、CD-RWを消去したくない場合は、SHIFTキーを押しながらEXITキーを押してトレイを開き、別のCDと交換してください。

CDからソングをリストア（読み込み）する

データCDにバックアップしてあるソングをリストア(読み込み)します。

- 1 CDトレイにバックアップファイルが記録されているCDを入れます。
- 2 MENUキーを押して、DATA CDメニューを表示します。

```
----- MENU -----
MIDI :
AUDIO CD :
DATA CD >
```

- 3 DATA CDメニューからCD RESTOREを選択します。

```
----- DATA CD -----
CD IMPORT :
CD BACKUP :
CD RESTORE >
```

- 4 CD上に記録されているバックアップソング名が表示されます。
- 5 ENTERキーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```
| Song: SONG000C |
| Are you sure ? |
```

もう一度ENTERキーを押すと、リストアが開始されます。

- 6 複数枚のCDにバックアップされていた場合には、一枚目のCDが終了後、2枚目のCDの要求メッセージが表示されますので、バックアップCDをセットしてください。

```
| #2/2 CD |
| InsertBackupCD |
```

データCDメニュー

データCDを消去する

書き込み済みCD-RWの消去を行います。

- 1 MENUキーを押して、DATA CDメニューを表示します。
- 2 DATA CDメニューからCD-RW ERASEを選択します。

```
--- AUDIO CD ---  
CD BACKUP      :  
CD RESTORE     :  
CD-RW ERASE   >
```

- 3 ENTERキーを押すと、以下の確認メッセージが表示されます。

```
|      CD ERASE      |  
| Are you sure  ? |
```

もう一度ENTERキーを押すと、CD-RWの消去が開始されます。

エラーメッセージ

CDメディアの読み取り／書き込みエラーなどにより、CD関連作業に問題があった場合、以下のポップアップメッセージが表示されます。

表示された場合は、**EXITキー**を押してメニューから抜け、メディアの状態などを確認後、作業を最初からやり直してください。

Backup Error Press EXIT

BACKUP実行の過程でエラーが発生しました。

CD Read Error Press EXIT

FINALIZE, BACKUP, RESTORE, IMPORT, EXPORT, ERASE実行の過程でCD読み込みエラーが発生しました。

CD Write Error Press EXIT

FINALIZE, BACKUP, EXPORT, ERASE実行の過程でエラーが発生しました。

Erase Error Press EXIT

ERASE実行の過程でエラーが発生しました。

Export Error Press EXIT

EXPORT実行の過程でエラーが発生しました。

Finalize Error Press EXIT

FINALIZE実行の過程でエラーが発生しました。

Import Error Press EXIT

IMPORT実行の過程でエラーが発生しました。

Media Error Press EXIT

CDプレーヤーメニューで、CDメディアにエラーが発生しました。

Restore Error Press EXIT

RESTORE実行の過程でエラーが発生しました。

Writing Failed Press EXIT

MASTER WRITE,またはCD EXPORTメニューのCD書き込み過程でエラーが発生しました

メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。DP-01FX/CDでは状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

Blank CD Insert CD-RW	「空白のCDがセットされています、空白でないCD-RWをセットしてください。」 CD-RW ERASEメニューで、消去済みのCD-RWまたは未書き込みのCD-Rがセットされた場合表示されます。セットされているCDは消去する必要がありません。
Blank CD Insert Opened CD	「空白のCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」 FINALIZEメニューで、消去済みのCD-RWまたは未書き込みのCD-Rがセットされた場合表示されません。 FINALIZEしたいCDをセットしてください。
CD ERASE Insert CD-RW	「CD-RWを消去します、CD-RWをセットしてください。」 CD-RW ERASEメニューでCDトレイがオープンされた場合表示されます。 消去したいCD-RWをセットし、トレイをクローズしてください。
CD Export Insert Blank CD	「空白CDをセットしてください。」 CD EXPORTメニューでCDトレイがオープンされた場合表示されます。 空白CDをセットし、トレイをクローズしてください。
CD IMPORT Insert Import CD	「インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。」 CD IMPORTメニューでCDトレイがオープンされた場合表示されます。 インポートデータが書き込まれたCDをセットし、トレイをクローズしてください。
CD RESTORE Insert Backup CD	「CDからリストアします。CDをセットしてください。」 CD RESTOREメニューでCDトレイがオープンされた場合表示されます。 バックアップデータが書き込まれたCDをセットし、トレイをクローズしてください。
Empty Export Track	「エクスポート可能なトラックがありません。」 CD EXPORTメニューでトラック1-8にオーディオデータが記録されていない場合表示されます。
FINALIZE Insert Opened CD	「ファイナライズしたいCDをセットしてください。」 ファイナライズメニューで、CDトレイがオープンされた場合表示されます。 ファイナライズしたいCDをセットし、トレイをクローズしてください。
Finalized CD Insert CD-RW	「クローズされたCDがセットされています、空白でないCD-RWをセットしてください」 CD-RW ERASEメニューでファイナライズ済みのCD-Rがセットされた場合表示されます。 CD-RWのみが消去可能です。
Finalized CD Insert Opened CD	「ファイナライズ済みのCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」 ファイナライズメニューで、ファイナライズ済みのCDがセットされた場合表示されます。 このCDはファイナライズの必要がありません。
Import File Not Found	「インポートファイルが見つかりません、インポートCDをセットしてください。」 CD IMPORTメニューでセットされたCDにインポートファイルがない場合表示されます。 インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。
Import File Too Big	「インポートファイルが大きすぎます。」 CD IMPORTメニューでインポートを実行する際、インポートするファイル容量がハードディスクの空き容量以上であった場合表示されます。 DEL/UNUSEDなどでハードディスク上の空き容量を増やし、ハードディスク上にインポートファイルを読み込めるだけの空き容量を確保してください。
Invalid CD Insert Backup CD	「無効なCDがセットされています、バックアップCDをセットしてください。」 CD RESTOREメニューで、バックアップデータが書き込まれていないCDがセットされている場合表示されます。 バックアップデータが書き込まれたCDをセットしてください。

Invalid CD Insert Blank CD	「無効なCDがセットされています、ブランクCDをセットしてください。」 MASTER WRITE, CD BACKUP, CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを行う際、ブランクCD以外のCDがセットされている場合表示されます。(Track at Onceで書き込みを行う場合は、ファイナライズ済みのCDがセットされた場合もこのメッセージが表示されます。)ブランクCDをセットしてください。
Invalid CD Insert CD-RW	「無効なCDがセットされています、CD-RWをセットしてください。」 CD-RW ERASEメニューで、CD-Rなど消去できないCDがセットされた場合表示されます。消去したいCD-RWをセットしてください。
Invalid CD Insert Import CD	「無効なCDがセットされています、インポートCDをセットしてください。」 CD IMPORTメニューでオーディオ CDやブランクCDなど、無効なCDがセットされた場合表示されます。インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。
Invalid CD Insert Opened CD	「無効なCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」 ファイナライズメニューで、ファイナライズできないCDがセットされた場合表示されます。ファイナライズしたいCDをセットしてください。
Low Capacity Insert Blank CD	「容量の少ないCDがセットされました、適正な容量のブランクCDをセットしてください。」 CDへのMASTER WRITE(Disc at Once)、CD BACKUPまたはCD EXPORT終了後、さらに同じ内容のCDを複数作成しようとしたとき、CDの容量が書き込みたいデータ容量以下であった場合表示されます。(例えば、最初の書き込み時にCDの容量が700 MB/データ容量が650 MBで書き込みを実行し、書き込み終了後“Another CD?”表示の後、640 MBのCDをセットした場合などに表示されます。)適正な容量のブランクCDをセットしてください。
MASTER WRITE Insert Blank CD	「ブランクCDをセットしてください。」 MASTER WRITEメニューでCDへの書き込みを準備完了後、CDトレイがオープンされた場合表示されます。ブランクCDをセットし、トレイをクローズしてください。
No Disk Insert Backup CD	「CDがセットされていません、バックアップCDをセットしてください。」 CD RESTOREメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。バックアップデータが書き込まれたCDをセットしてください。
No Disk Insert Blank CD	「CDがセットされていません、ブランクCDをセットしてください。」 ●MASTER WRITE, CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを行う際、CDがトレイにない場合表示されます。 ●CD BACKUPメニューでバックアップ準備完了後、CDトレイがオープンされた場合表示されます。ブランクCDをセットし、トレイをクローズしてください。 ブランクCDをセットしてください。
No Disk Insert CD-RW	「CDがセットされていません、ブランクでないCD-RWをセットしてください。」 CD-RW ERASEメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。消去したいCD-RWをセットしてください。
No Disk Insert Import CD	「CDがセットされていません、インポートするCDをセットしてください。」 CD IMPORTメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。
No Disk Insert Opened CD	「CDがセットされていません、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」 ファイナライズメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。

No Room On CD Press EXIT 「CDの容量以上のデータが書き込まれようとした、メニューを抜けてください」

MASTER WRITEメニューでCDへの書き込みを開始時、指定したマスタートラックの合計容量がセットされたCDの容量以上になった場合表示されます。EXITキーを押してメニューを抜け、再度書き込むトラックの指定を行ってください。

No Room On HD Press EXIT 「ハードディスクの容量が不足しています、メニューを抜けてください」

MASTER WRITE、CD BACKUP、CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを開始時、ハードディスク上にCDイメージファイルを作る空き容量がない場合表示されます。
DEL/UNUSEDなどでハードディスク上の空き容量を増やし、ハードディスク上にCDイメージファイルを作成できる空き容量を確保してください。

Not Blank Insert Blank CD 「ファイナライズされていないCDがセットされています、ブランクCDをセットしてください」

MASTER WRITEメニューでDisc at Onceの書き込みを行う際、Track at Onceで書かれたCDがセットされている場合表示されます。
ブランクCDをセットするか、Track at Onceで書き込みを行ってください。

Track Full

「空きのトラックがありません。」

CD IMPORTメニューでインポートを実行する際、インポートするトラックがない場合（すべてのトラックが使用済み）表示されます。
CLEAN OUTで空きトラックを作った後インポートを行うか、新規のソングを作成後インポートを行ってください。

Wrong Order InsertBackup CD 「CDの順番が間違っています、バックアップCDをセットしてください。」

CD RESTOREメニューで複数枚のリストアを実行中、BACKUP CDの順番を間違えてセットした場合表示されます。
適正なバックアップCDをセットしてください。

こんなときには？

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。メッセージ一覧と合わせてご利用下さい。

なお項目は五十音順に並んでいます。

- キー名称は**LOCATE**のように表記します。
- **SHIFT + LOCATE**のような表記は、「**SHIFT**キーを押しながら**LOCATE**キーを押す」という意味です。
- 「**MENU**キーを押し、メニュー選択画面から**DISK**メニューを選択し、**DISK**メニューの中から**FORMAT**項目を選択する」という操作を「**MENU**⇨**DISK**⇨**FORMAT**」のように表記します。
- 複雑な操作の場合、全部の操作は表記しません。

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
EQの周波数を変えたい	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ EQ FREQ	「EQの設定」(27ページ)
FATパーティションをフォーマットしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ FAT REFORM	「FATパーティションをフォーマットする」(37ページ)
"IN、OUT、TOポイントをトリミングしたい"	SHIFT + TRACK EDIT	「IN/OUTポイント」(25ページ)
"IN、OUT、TOポイントにロケートしたい"	" IN、OUT、TO を押す"	「IN/OUTポイント」(25ページ)
"IN、OUT、TOポイントを設定したい"	" SHIFT + IN、OUT、TO "	「IN/OUTポイント」(25ページ)
"IN、OUT、TOポイントを編集したい"	POINT EDIT (SHIFT + TRACK EDIT)	「IN/OUTポイント」(25ページ)
"MIDIクロック用に、拍子とテンポを設定したい"	MENU ⇨ MIDI ⇨ TEMPO/T.SIG	「テンポの設定」(32ページ)
MIDIタイムコードやMIDIクロックを使って外部機器を同期したい	MENU ⇨ MIDI ⇨ GENERATOR	「MIDIと一緒に使う」(34ページ)
MIDIメトロノームを使いたい	MENU ⇨ MIDI ⇨ METRONOME	「メトロノーム」(33ページ)
USB接続を有効にしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ USB OPN/CLS	「USB接続を使う」(39ページ)
USBモードをオープンしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ USB OPN/CLS	「USBモードのオープンとクローズ」(40ページ)
WAVファイルをトラックにインポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ IMPORT TRACK	「トラックをインポートする」(43ページ)
アクティブパーティションを変更したい	MENU ⇨ DISK ⇨ PARTITION	「アクティブパーティションを選択する」(36ページ)
ギターやベースをチューニングしたい(*)	MULTI + REVERB	「ギター/ベース用チューナー」(58ページ)
現在のパーティションを知りたい	ホーム画面で NO/EXIT キーを押し続ける	「ソング情報」(18ページ)
最後に保存したときの状態にソングを戻したい	MENU ⇨ SONG ⇨ REVERT	「ソングを保存する」(16ページ)
自動操作でレコーディングしたい	" AUTO PUNCH、RHSL など"	「オートパンチイン/アウト」(28ページ)
新規ソングを作成したい	MENU ⇨ SONG ⇨ CREATE	「新しいソングを作成する」(16ページ)
ステレオマスタートラックにミックスしたい	MASTER	「ミックスダウンとマスタリング」(22ページ)
ステレオミックスをパソコンにエクスポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ EXPORT MSTR.	「マスターミックスをエクスポートする」(45ページ)
操作を一回REDOしたい	SHIFT + UNDO	「操作を取り消す (UNDO)」(51ページ)
操作を一回UNDOしたい	UNDO	「操作を取り消す (UNDO)」(51ページ)

こんなときには？

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
操作を複数回REDOしたい	UNDO長押し ⇨ 操作選択 ⇨ YES/ENTER	「操作を取り消す (UNDO)」(51 ページ)
操作を複数回UNDOしたい	UNDO長押し ⇨ 操作選択 ⇨ YES/ENTER	「操作を取り消す (UNDO)」(51 ページ)
ソングに名前を付けたい	SHIFT + MENU	「名前を付ける」(11 ページ)
ソングのプロテクトを解除したい	MENU ⇨ SONG ⇨ PROTECT	「ソングをプロテクトする」(39 ページ)
ソング名を見たい	ホーム画面でNO/EXITキーを押し続ける	「ソング情報」(18 ページ)
ソングをコピーしたい	MENU ⇨ SONG ⇨ COPY	「ソングをコピーする」(38 ページ)
ソングを削除 (消去) したい	MENU ⇨ SONG ⇨ ERASE	「ソングを消去する」(17 ページ)
ソングをバックアップしたい	MENU ⇨ BACKUP ⇨ SONG BACKUP	「ソングのバックアップとリストア」(41 ページ)
ソングをプロテクトしたい	MENU ⇨ SONG ⇨ PROTECT	「ソングをプロテクトする」(39 ページ)
ソングを保存したい	MENU ⇨ SONG ⇨ SAVE	「ソングを保存する」(16 ページ)
ソングをロードしたい	MENU ⇨ SONG ⇨ LOAD	「保存されているソングをロードする」(17 ページ)
ディスクをフォーマットしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ FORMAT	「ディスクをフォーマットする」(36 ページ)
トラック全体を消去したい	TRACK EDIT ⇨ CLEAN OUT	「CLEAN OUT (トラック削除)」(50 ページ)
トラック内に無音パートを挿入したい	TRACK EDIT ⇨ OPEN	「OPEN (無音挿入)」(49 ページ)
トラックの一部をカットして詰めたい	TRACK EDIT ⇨ CUT	「CUT (部分削除)」(49 ページ)
トラックの一部をコピー／インサートしたい	TRACK EDIT ⇨ COPY INSERT	「COPY → INSERT」(47 ページ)
トラックの一部を別の場所に移動したい	TRACK EDIT ⇨ MOVE PASTE	「MOVE → PASTE」(48 ページ)
トラックの一部を別の場所にインサートしたい	TRACK EDIT ⇨ MOVE INSERT	「MOVE → INSERT」(48 ページ)
トラックの一部を無音にしたい	TRACK EDIT + SILENCE	「SILENCE (部分消去)」(50 ページ)
トラックのクローンを作りたい	TRACK EDIT ⇨ CLONE TRACK	「CLONE TRACK (トラックの複製)」(50 ページ)
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ EXPORT TRACK	「トラックをエクスポートする」(44 ページ)
トラックの一部をコピー／ペーストしたい	TRACK EDIT ⇨ COPY PASTE	「COPY → PASTE」(47 ページ)
トラックバウンスをやりたい	BOUNCE	「トラックバウンス」(30 ページ)
入力をトラックにアサインしたい	ASSIGN + REC	「入力をアサインする」(19 ページ)
ノイズサプレッサーを設定したい(*)	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ NSP	「ノイズサプレッサー」(59 ページ)
バー／ビート表示にしたい	"ホーム画面で"ABS"をDATAダイアルで変更"	「バー／ビートを基準に作業する」(32 ページ)
パーティションをフォーマットしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ REFORM	「パーティションをフォーマットする(リフォーマ)」(37 ページ)
パソコンからソングをリストアしたい	MENU ⇨ BACKUP ⇨ SONG RESTORE	「ソングのバックアップとリストア」(41 ページ)
不要なソングデータを削除したい	MENU ⇨ SONG ⇨ DEL/UNUSED	「不要なデータを削除する」(38 ページ)
プリロール／ポストロールの時間を設定したい	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ Pre/Post	「プリロールタイムとポストロールタイムの設定」(29 ページ)
別のトラックにピンポン (バウンス) したい	BOUNCE	「トラックバウンス」(30 ページ)
マルチエフェクトを使いたい(*)	"MULTI ⇨ TYPE、PARAMETER"	「マルチエフェクト」(60 ページ)
メーターの形を変えたい	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ Meter	「メーターの外観を変える」(27 ページ)
メトロノームの設定をしたい	MENU ⇨ MIDI ⇨ METRONOME	「メトロノーム」(33 ページ)
リバーブを使いたい(*)	"REVERB ⇨ TYPE、PARAMETER"	「リバーブ」(64 ページ)
録音残時間を知りたい	ホーム画面でNO/EXITキーを押し続ける	「ソング情報」(18 ページ)

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
ロケーションマーク(指定)にロケートしたい	LOCATE 長押し ⇨ マーク選択 ⇨ YES/ENTER	「ロケーションマーク」(24ページ)
ロケーションマーク(次または手前)にロケートしたい	LOCATE + F FWD または REW	「ロケーションマーク」(24ページ)
ロケーションマークを設定したい	SHIFT + LOCATE	「ロケーションマーク」(24ページ)
ロケーションマークを編集(微調整)したい	LOCATE 長押し ⇨ マーク選択 ⇨ ▶	「ロケーションマーク」(24ページ)

(*)DP-01FXおよびDP-01FX/CD

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

タスカム営業技術 〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:00～17:00です。

ティアック修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

<http://www.teac.co.jp/tascam/>